

副首都関連参考資料

目次

1. 大阪の現状と課題

(1) 基本データ	4
(2) 分野別の状況	
①経済産業	16
②都市基盤	21
③府民生活	23
④都市活力	28
(3) 主要指標における都市比較	31
(4) 大阪の成長に向けた重点課題	38

2. 首都・副首都について

(1) 首都の定義・位置づけ	51
(2) 諸外国の事例	53
(3) 国等の動き	54
[首都機能（国会等）移転、政府関係機関の地方移転、首都機能のバックアップ]	
(4) 東京一極集中の現状	59

<参考>

大阪府・市事業の「経営形態の見直し」及び「類似・重複している行政サービスの見直し」

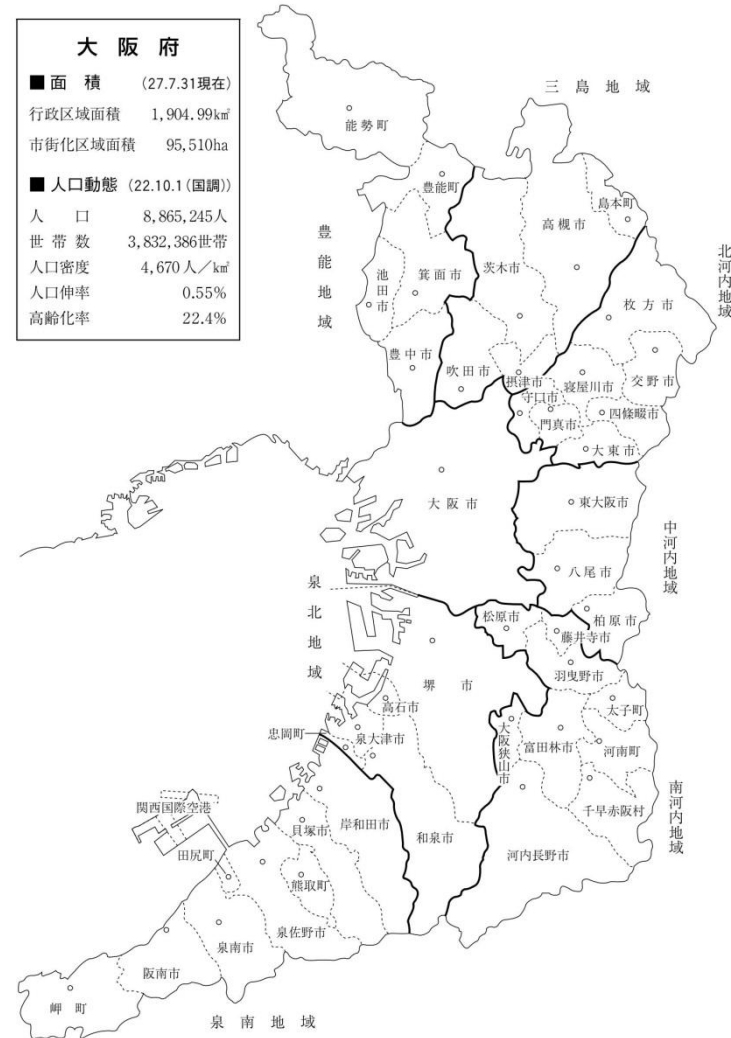
1. 大阪の現状と課題

(1)基本データ

基本データ <大阪府の概要>

- 大阪府の人口は885万人。県庁所在地（政令市）の大阪市の人口は268万人
- 府内は43市町村で構成され、大阪市を中心に南北と東に8エリアを区分
- 大阪市と堺市の2つの政令市のほか、4中核市、5特例市（施行時特例市）*が存在

大阪市	豊能	三島	北河内	中河内	泉北	泉南	南河内
政令指定都市							
・大阪市					・堺市		
中核市							
	・豊中市	・高槻市	・枚方市	・東大阪市			
特例市（施行時特例市）							
		・吹田市 ・茨木市	・寝屋川市	・八尾市		・岸和田市	
その他の市町村							
<ul style="list-style-type: none"> 池田市 箕面市 能勢町 豊能町 	<ul style="list-style-type: none"> 摂津市 島本町 	<ul style="list-style-type: none"> 守口市 大東市 門真市 四條畷市 交野市 	<ul style="list-style-type: none"> 柏原市 	<ul style="list-style-type: none"> 泉大津市 和泉市 高石市 忠岡町 	<ul style="list-style-type: none"> 貝塚市 泉佐野市 泉南市 阪南市 熊取町 田尻町 岬町 	<ul style="list-style-type: none"> 富田林市 河内長野市 松原市 羽曳野市 藤井寺市 大阪狭山市 太子町 河南町 千早赤阪村 	



<大阪府の土地と面積／大阪府統計年鑑より>

- 大阪府は摂津平野、河内平野、和泉平野を合わせた大阪平野で占められ、北部は京都府、東部は生駒、金剛の両山地を隔てて奈良県に、南部は和泉山脈を境として和歌山県に、西部は猪名川を隔てて兵庫県にそれぞれ接する。大阪市以南の西部では大阪湾に臨む。
- 東端は枚方市大字尊延寺、西端は泉南郡岬町多奈川小島、南端は岬町多奈川西畑、北端は豊能郡能勢町天王。直線距離は東西60.0km、南北86.5km。
- 面積は1,905km²で、都道府県別では全国第46位。日本の総面積の0.5%

注* 地方自治法改正により、2015年4月から特例市制度が廃止され、中核市と統合している。改正法施行時点で指定されている特例市を「施行時特例市」という。

基本データ <主な指標（東京との比較）>

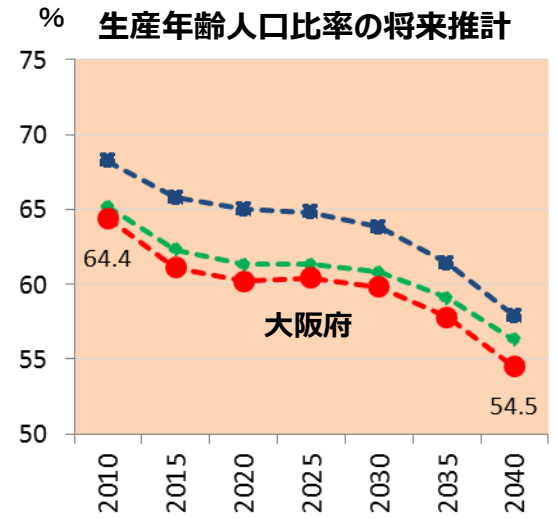
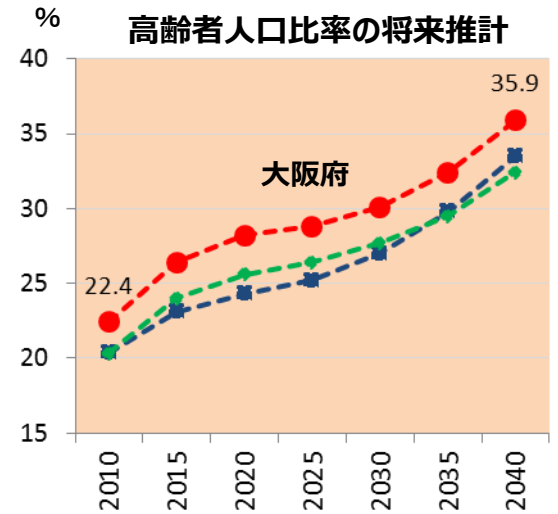
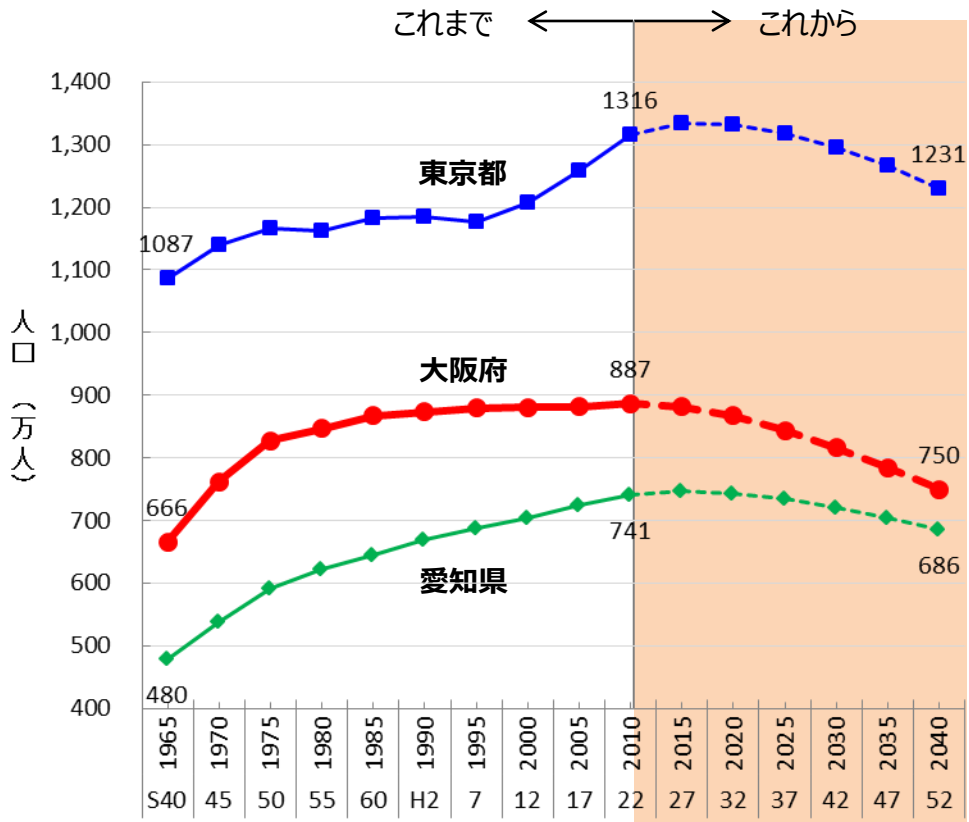
	大阪府			東京都			年度
		大阪市	シェア		特別区部	シェア	
面積	1,905km ²	223km ²	11.7%	2,191km ²	623km ²	28.4%	2013
可住地面積	1,314km ²	223km ²	17.0%	1,392km ²	623km ²	44.8%	2013
夜間人口	8,865千人	2,665千人	30.3%	13,159千人	8,946千人	67.7%	2010
昼間人口	9,281千人	3,539千人	38.1%	15,576千人	11,712千人	75.2%	2010
昼夜間人口比率	104.7%	132.8%	—	118.4%	130.9%	—	2010
人口密度(常住)	4,643人/km ²	12,034人/km ²	—	6,042人/km ²	14,543人/km ²	—	2013
転入出(社会増減)	+3,377人	+8,729人	—	+70,172人	+61,281人	—	2013
市町村数	43市町村	24行政区	—	39市町村	23特別区	—	2015
域内総生産	36.8兆円	18.4兆円	50.0%	91.9兆円	—	—	2012
事業所数	408,713事業所	189,234事業所	46.3%	627,357事業所	498,735事業所	79.5%	2012
従業員数	4,335千人	2,192千人	50.3%	8,655千人	7,212千人	83.3%	2012
大学数	55校	11校	20.0%	135校	93校	67.9%	2015
普通会計歳出	27,805億円	16,504億円	—	62,022億円	31,796億円	—	2013
地方税収	10,442億円	6,419億円	—	45,342億円	9,481億円	—	2013
自治体職員数	82,483人	35,112人	—	167,243人	60,838人	—	2014

※特別区部の数値は、東京23区の合計

基本データ <人口の推移>

- 大阪の人口推計では①他都市に先んじて人口減少社会に突入し、②高齢化率の伸びが高く、③生産年齢人口の低下が著しい、という3重苦の時代が到来する。

3大都市の人口推計

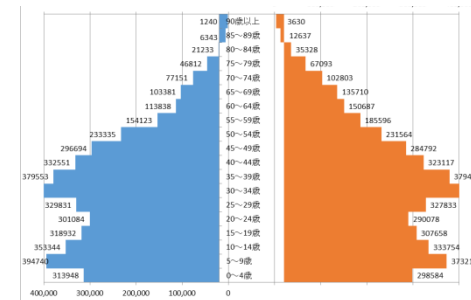


出典：大阪府人口ビジョン(素案)2015.8から作成

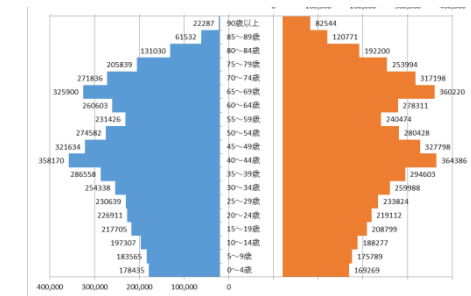
基本データ <基本データ／人口構成の変遷>

- 大阪府の人口構成は、少子・高齢化の進展に伴い、2040年には「団塊ジュニア世代」が65歳を超え、逆三角形の「つぼ型」に遷移。
- 1950年代半ば以降に大量流入した「団塊世代」と「団塊ジュニア世代」が高齢化する一方、出生率の低下により、人口の波が訪れず、全体としてゆるやかに人口減少がおこる。

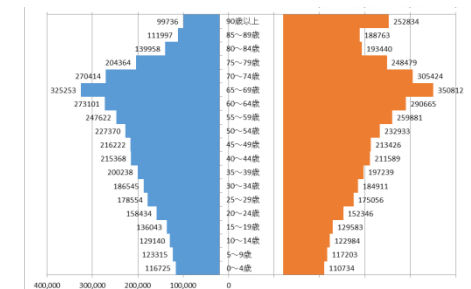
【過去(1980年)】



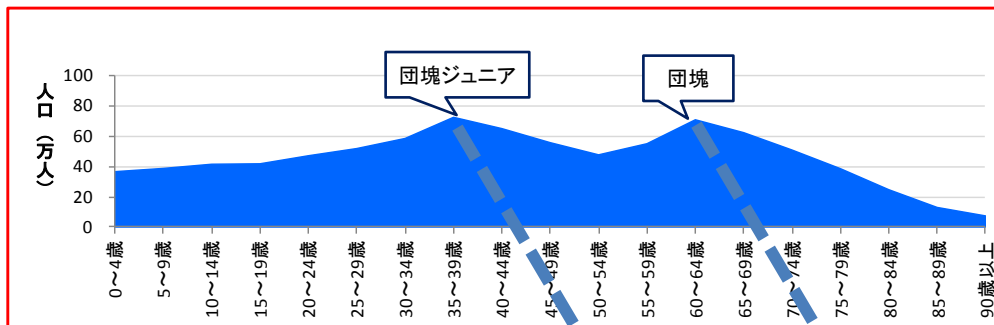
【現在(2015年)】



【未来(2040年)】

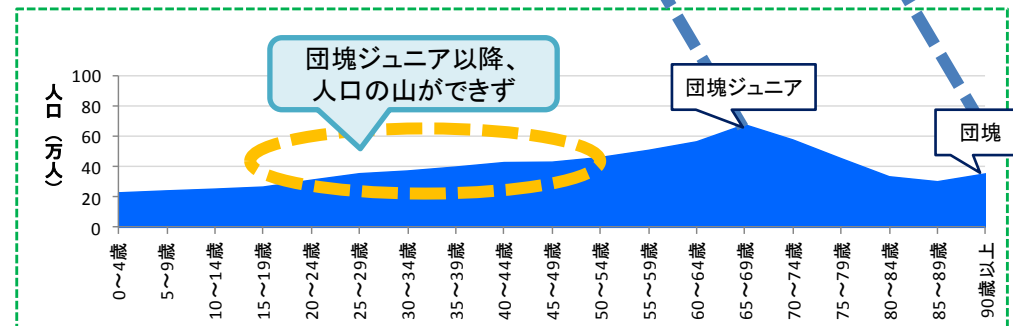


2010(H22)年



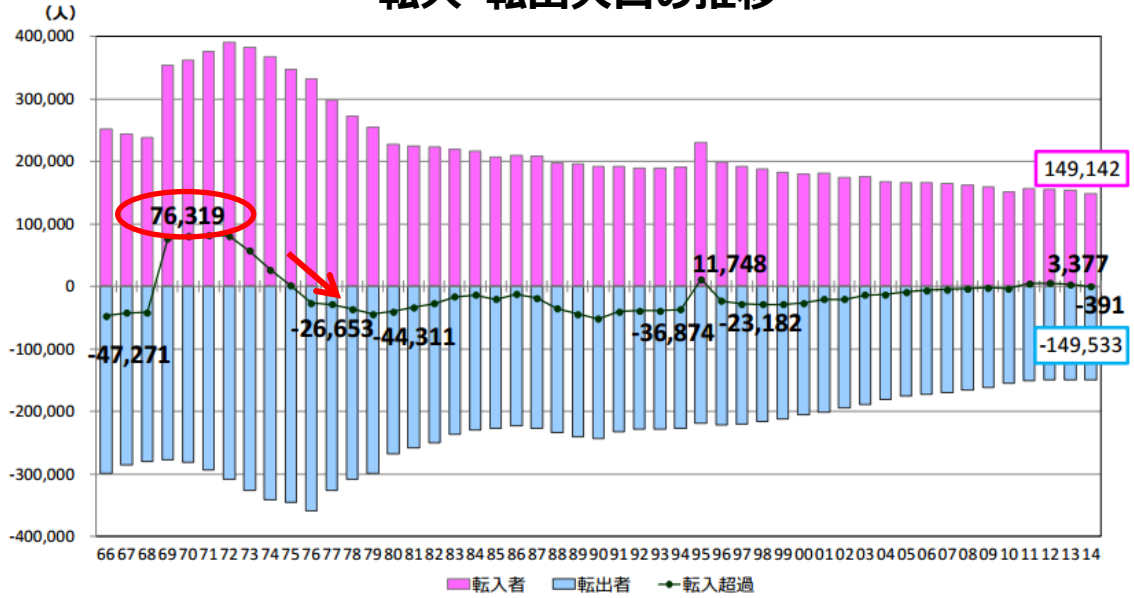
30年後

2040(H52)年



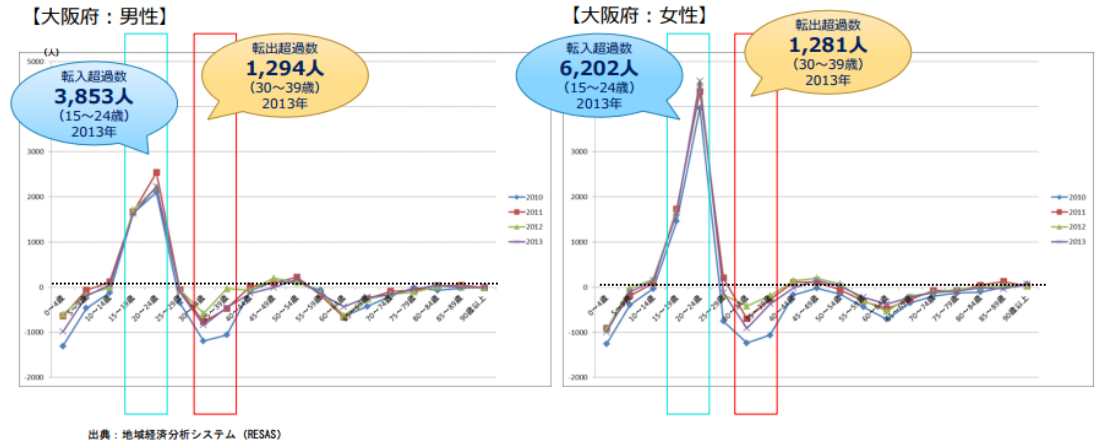
基本データ <人口移動①（転入転出の推移／男女別・年代別）>

転入・転出人口の推移



- 大阪は高度経済成長期には7.6万人を超える人口流入があったが、1976年に転出超過に転じて以降、長く人口流出が続いている。（近年やや改善）

男女別・年代別の転入転出人口（2013）



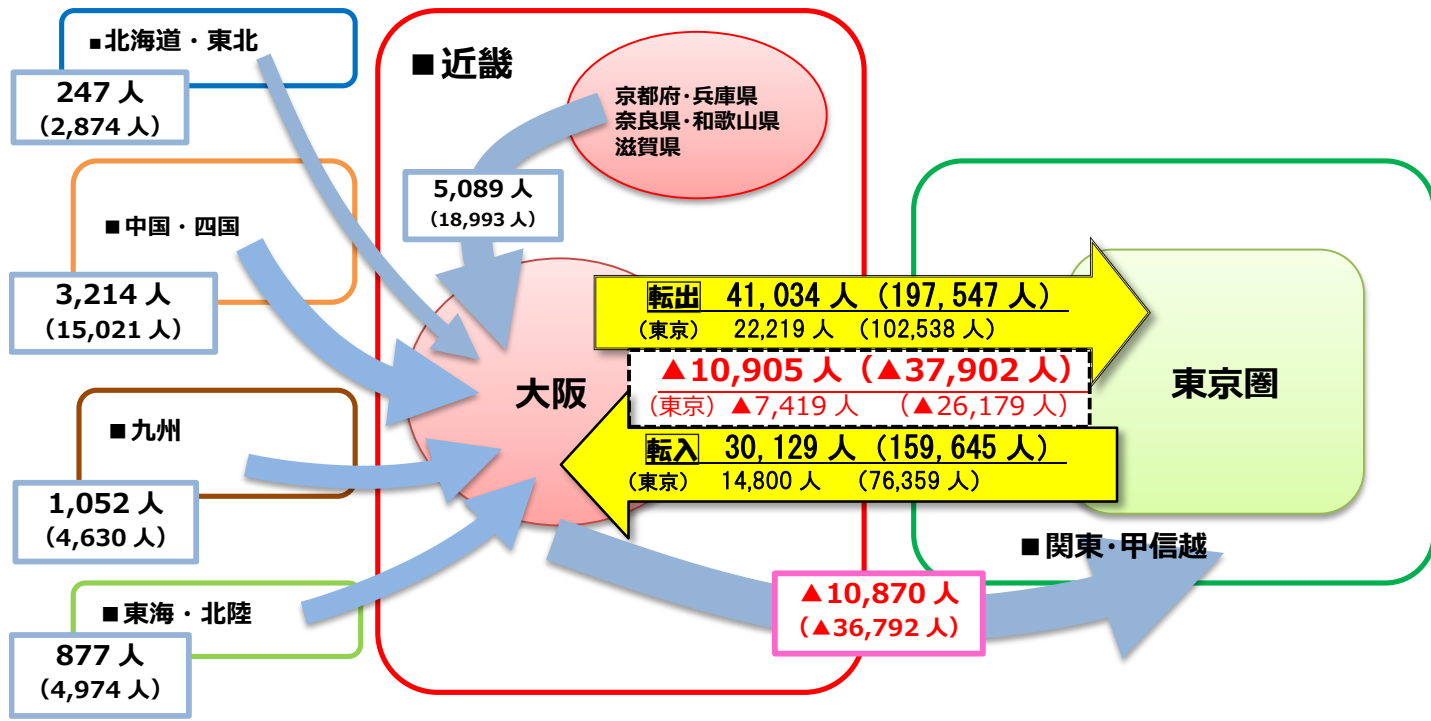
- 大阪では、男女ともに15～24歳の転入超過が顕著であるのに対し、他の年代は転出超過の傾向にあり、特に30～39歳の中堅世代の人口転出が多い。
- 女性の15～24歳における転入超過は、男性の約2倍。

出典：大阪府人口ビジョン（素案）2015.8

基本データ <人口移動②（大阪と東京の転入転出）>

- 圏域別にみると、大阪は西日本を中心に他圏域から一定の人口流入があるのに対し、東京圏への人口流出が顕著で、この5年間で約38,000人の転出超過となっている。

大阪への転出、東京への転出状況【2010～2014の5年累計】



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

※上段：直近1年の転入超過数 (2014)
 (下段)：過去5年累計の転入超過数 (2010-2014)

**5年間の
転入転出**

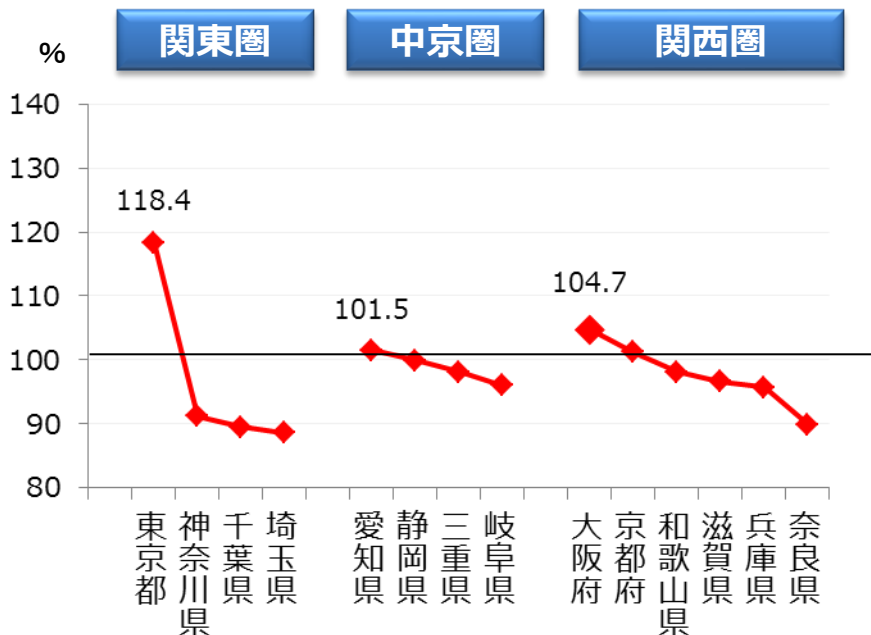
他圏域から
27,499人

近畿圏域から
18,993人

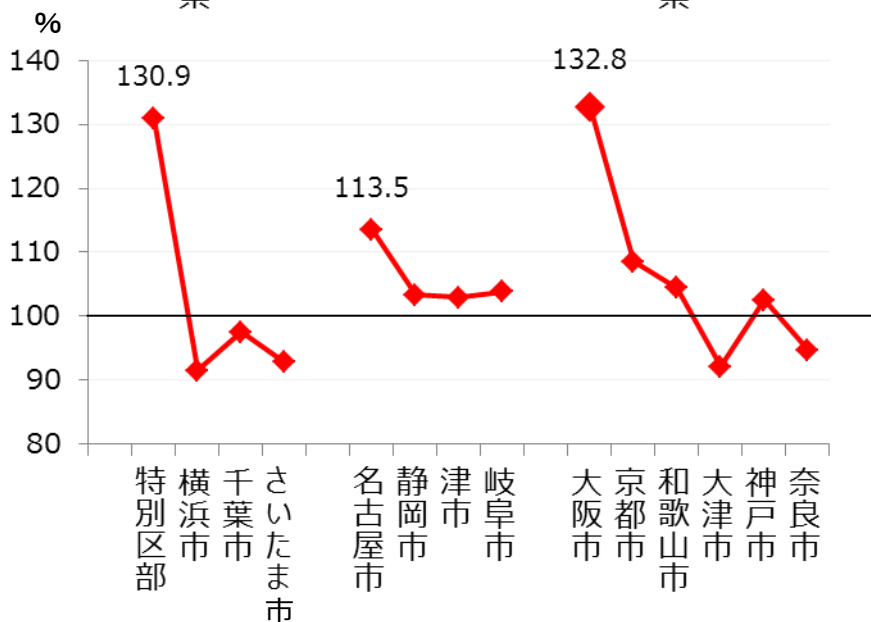
東京圏域へ
 $\blacktriangle 37,902$ 人

基本データ <人口の昼夜間比率>

都道府県



県庁所在地市・特別区部



出典：H22年国勢調査

- 大阪は、特に大阪市において高い昼夜間比率となっており、周辺地域から昼間人口が多く流入するという特徴を持つ。

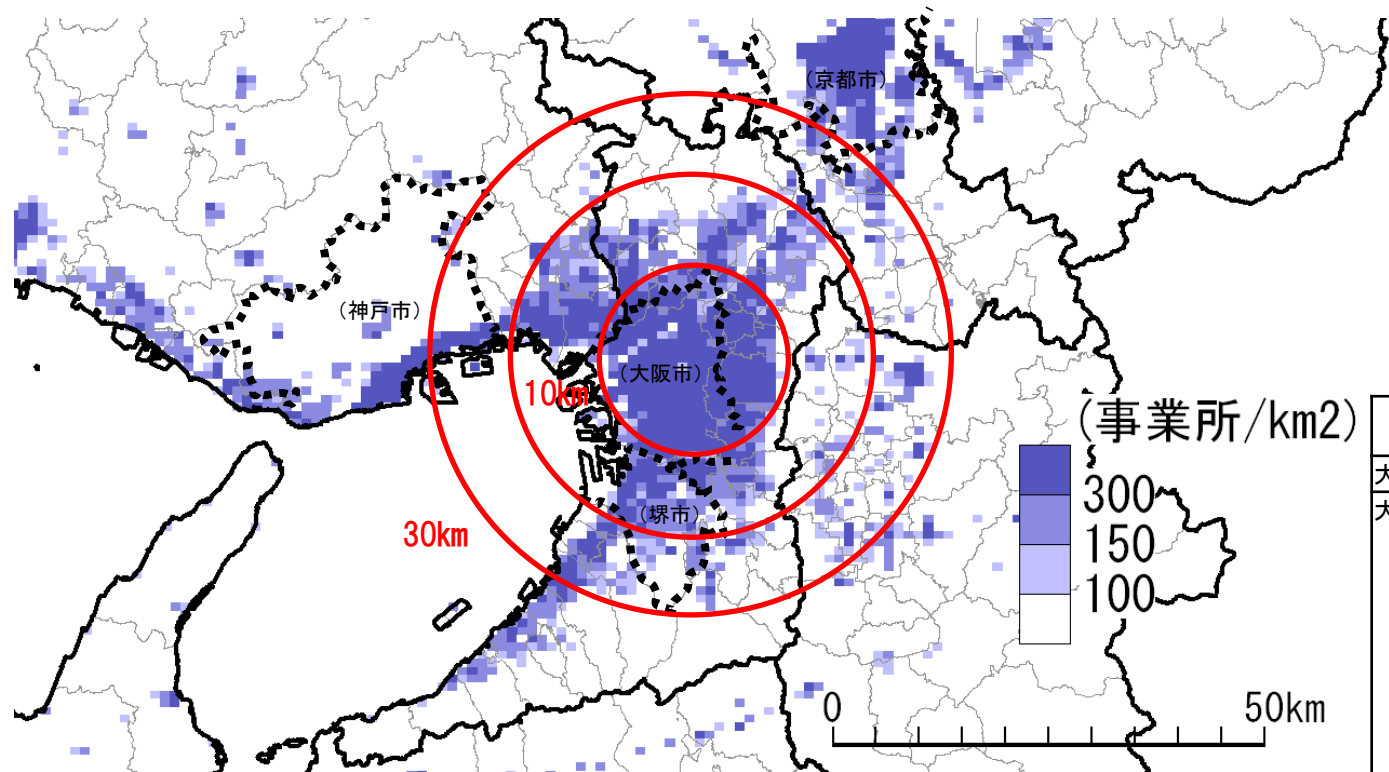
昼夜間人口比率の高い市区町村トップ10

順位	市区町村名	比率 (%)
1	東京都千代田区	1738
2	大阪市中央区	592
3	東京都中央区	494
4	東京都港区	432
5	名古屋市中区	379
6	大阪市北区	347
7	愛知県飛島村	290
8	東京都渋谷区	255
9	東京都新宿区	230
10	神戸市中央区	219

※ 全国1890市区町村中の順位

基本データ <大阪の都市エリア（事業所の集積）>

- 都心部から連続する事業所密集エリアは大阪市域をこえて、内陸へは20km圏内、湾岸は神戸市から関西空港にかけて広がりを見せている



事業所密度「300事業所/km²以上の地域」のエリアに入る市区町村
 ◇大阪市のうち住之江区、此花区以外の22区、堺市堺区・北区、
 豊中市、守口市、門真市、東大阪市、寝屋川市、八尾市、藤井寺市、松原市
 ◇京都市中京区・下京区・上京区・東山区・南区
 ◇神戸市中央区・兵庫区・長田区、尼崎市

	事業所数 (事業所)	府内シェア
大阪市	201,462	47.0%
大阪市隣接市	123,538	28.8%
堺市	29,978	7.0%
東大阪市	28,053	6.6%
豊中市	13,778	3.2%
吹田市	10,675	2.5%
八尾市	12,807	3.0%
守口市	7,717	1.8%
門真市	6,292	1.5%
大東市	5,033	1.2%
摂津市	4,008	0.9%
松原市	5,197	1.2%
その他市町村	103,247	24.1%
計	428,247	100.0%

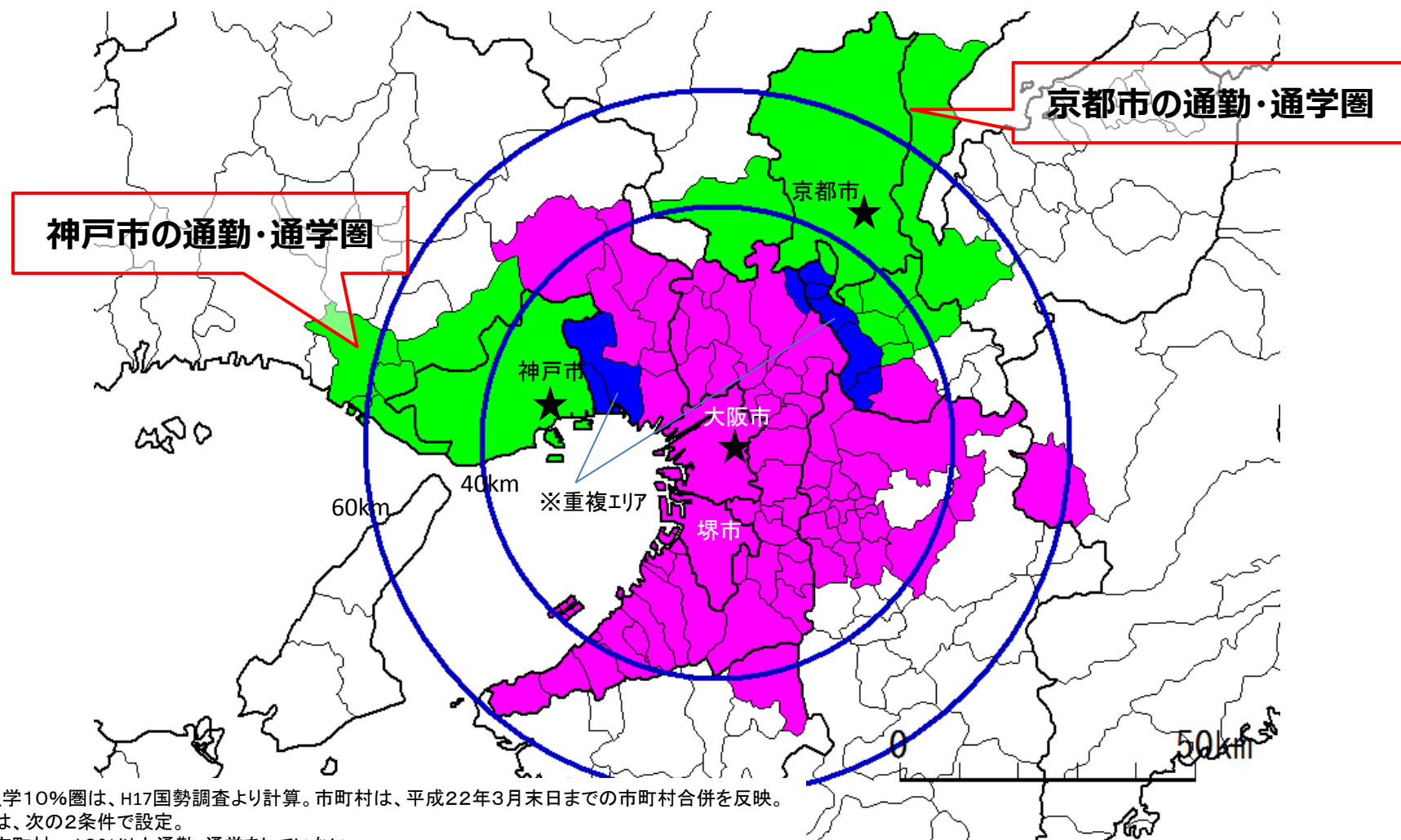
※「大阪府域における新たな大都市制度検討協議会報告書」より

出典：平成18年事業所・企業統計調査

基本データ <大阪の都市エリア（大阪市の10%通勤・通学圏）>

- 大阪市の10%通勤・通学圏は、大阪府域をこえ、隣接府県の一部の市町村を含み、40km圏外にも広がりを見せる

※ 堺市は大阪市の10%通勤・通学圏に含まれるが、京都市・神戸市は大阪市と独立した通勤・通学圏



通勤・通学10%圏は、H17国勢調査より計算。市町村は、平成22年3月末日までの市町村合併を反映。

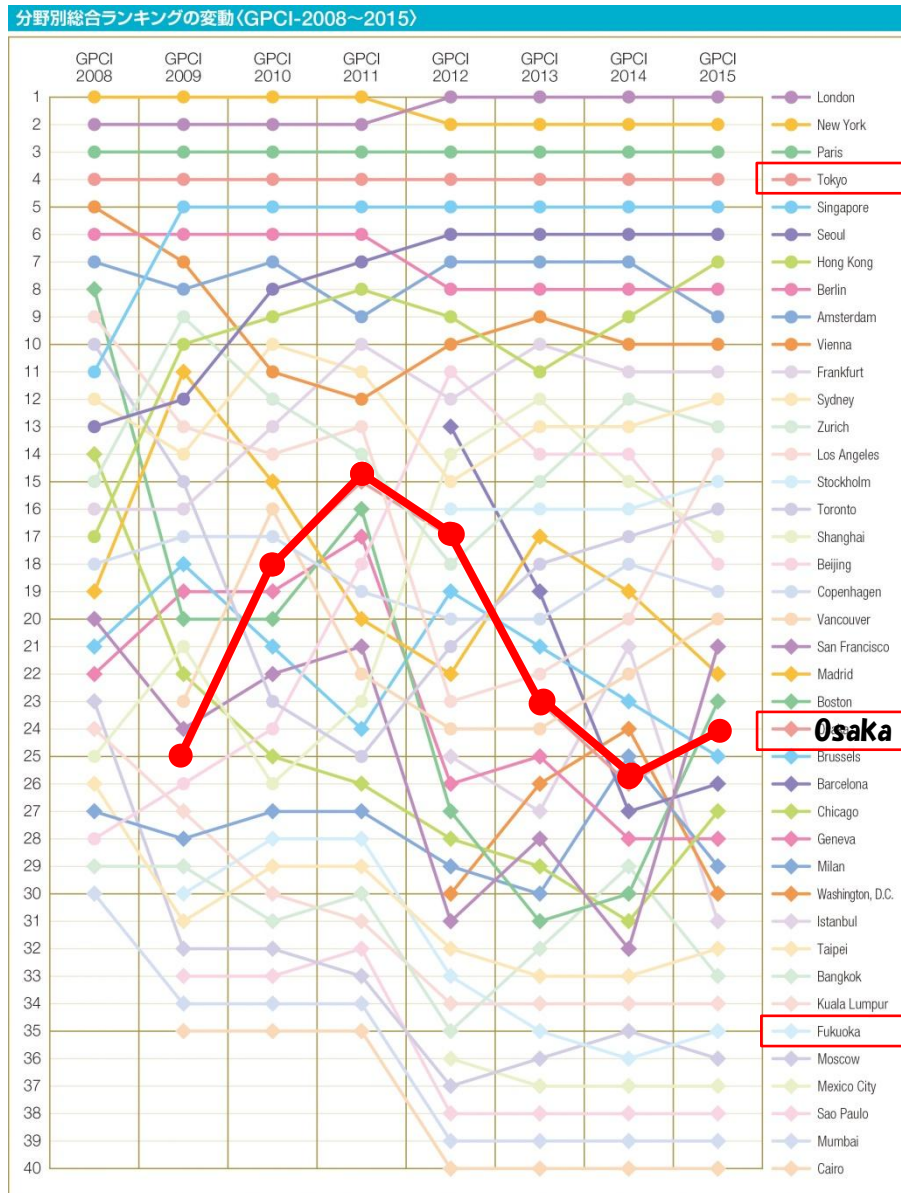
中心市は、次の2条件で設定。

①他の市町村へ10%以上通勤・通学をしていない。

②1つ以上の市町村が、通勤・通学者の10%以上を当該市へ送り出している。

基本データ <世界における大阪のポジション①>

世界の都市総合ランキング（推移）



- 民間調査による都市ランキングで大阪は、直近年でやや順位を上げているものの、40都市中24位にとどまっている。
- 分野別、アクター別でも中間（20位）を下回る指標が多い。

日本3都市の分野別ランキング（2015年）

		東京	大阪	福岡	トップ都市
分野別	経済	1位	23位	30位	東京
	研究・開発	2位	12位	26位	ニューヨーク
	文化・交流	5位	28位	39位	ロンドン
	居住	15位	16位	18位	パリ
	環境	13位	30位	22位	ジュネーブ
	交通アクセス	11位	29位	36位	パリ
アクター別	経営者	8位	25位	32位	ロンドン
	研究者	3位	15位	31位	ニューヨーク
	アーティスト	8位	24位	27位	パリ
	観光客	6位	25位	38位	ロンドン
	生活者	8位	20位	27位	パリ

基本データ <世界における大阪のポジション②>

経済 研究・開発 文化・交流 住居 環境 交通・アクセス

分野別ランキング

ランク	経済	研究・開発	文化・交流	住居	環境	交通・アクセス
1	Tokyo 326.7	New York 221.2	London 333.4	Paris 323.8	Geneva 208.1	Paris 236.9
2	London 323.6	Tokyo 167.9	New York 263.5	Berlin 310.1	Frankfurt 205.5	London 234.0
3	New York 302.2	London 161.9	Paris 236.0	Vancouver 302.3	Stockholm 205.0	Amsterdam 207.0
4	Beijing 300.8	Los Angeles 145.0	Singapore 180.3	Vienna 297.8	Zurich 200.9	Singapore 206.7
5	Hong Kong 277.6	Paris 124.2	Tokyo 164.5	Barcelona 296.1	Vienna 198.3	Hong Kong 205.0
6	Singapore 274.5	Seoul 122.7	Beijing 153.9	Geneva 294.1	Singapore 197.5	Frankfurt 201.9
7	Zurich 247.3	Boston 122.3	Berlin 151.5	Toronto 292.2	Vancouver 196.6	Shanghai 195.2
8	Seoul 243.2	Singapore 116.1	Sydney 147.9	Zurich 292.1	London 194.2	New York 194.2
9	Shanghai 239.6	San Francisco 109.6	Vienna 147.4	Amsterdam 290.8	Berlin 191.9	Seoul 189.5
10	Stockholm 227.7	Chicago 104.4	Los Angeles 144.0	Madrid 289.4	Copenhagen 191.6	Istanbul 171.3
11	Geneva 225.0	Hong Kong 91.1	Istanbul 141.2	Copenhagen 286.9	Amsterdam 186.6	Tokyo 169.9
12	Copenhagen 221.3	Osaka 88.4	Brussels 128.3	Milan 284.9	Washington, D.C. 185.7	Kuala Lumpur 153.4
13	Paris 217.5	Berlin 72.3	Barcelona 125.9	Stockholm 283.5	Tokyo 178.8	Brussels 149.4
14	Sydney 214.5	Sydney 67.9	Seoul 124.9	Frankfurt 283.0	Madrid 177.0	Barcelona 147.9
15	Washington, D.C. 211.3	Washington, D.C. 67.6	Amsterdam 119.0	Tokyo 282.8	Sydney 176.9	Milan 147.3
16	Amsterdam 210.3	Shanghai 62.8	Shanghai 113.2	Osaka 280.8	Milan 172.2	Madrid 145.9
17	Berlin 210.2	Toronto 61.9	Mexico City 113.2	Taipei 278.4	San Francisco 170.3	Taipei 145.8
18	Toronto 207.1	Beijing 55.1	Madrid 111.6	Fukuoka 276.6	Paris 169.5	Bangkok 143.5
19	Vancouver 204.4	Taipei 55.1	Bangkok 109.7	London 272.7	Toronto 168.2	Moscow 143.3
20	San Francisco 203.4	Zurich 53.3	Moscow 109.0	Brussels 265.8	Los Angeles 167.9	Vienna 141.7
21	Frankfurt 201.6	Istanbul 52.4	Chicago 105.6	Hong Kong 256.9	Sao Paulo 165.9	Toronto 137.5
22	Taipei 195.1	Moscow 52.1	Milan 98.0	Shanghai 254.4	Fukuoka 164.2	Berlin 136.8
23	Osaka 192.7	Stockholm 50.9	Washington, D.C. 94.9	New York 250.8	Boston 161.9	Chicago 136.0
24	Kuala Lumpur 191.8	Amsterdam 48.4	Hong Kong 93.5	Seoul 250.4	Hong Kong 160.5	Copenhagen 135.0
25	Boston 190.9	Vienna 43.0	San Francisco 92.0	Kuala Lumpur 247.8	Seoul 158.2	Boston 127.7
26	Vienna 182.9	Fukuoka 39.7	Toronto 88.7	Bangkok 244.6	Taipei 156.1	Sydney 124.1
27	Los Angeles 181.6	Vancouver 39.2	Stockholm 76.6	Mumbai 242.6	New York 152.3	Beijing 122.1
28	Chicago 175.9	Geneva 37.5	Osaka 73.6	Sydney 238.7	Kuala Lumpur 143.9	Zurich 121.9
29	Brussels 173.2	Kuala Lumpur 37.1	Boston 72.9	Chicago 237.5	Brussels 143.2	Osaka 121.7
30	Fukuoka 169.2	Brussels 36.7	Copenhagen 67.3	Beijing 236.1	Osaka 140.2	Stockholm 116.6
31	Bangkok 169.1	Barcelona 36.1	Frankfurt 66.3	Singapore 232.3	Barcelona 138.5	Vancouver 114.8
32	Istanbul 162.6	Bangkok 33.1	Vancouver 63.4	San Francisco 231.6	Bangkok 138.4	San Francisco 109.6
33	Mexico City 156.5	Frankfurt 31.3	Sao Paulo 63.4	Boston 226.2	Chicago 127.3	Mexico City 107.3
34	Madrid 153.2	Copenhagen 28.3	Kuala Lumpur 58.3	Los Angeles 225.1	Istanbul 115.8	Cairo 103.8
35	Moscow 152.3	Madrid 27.1	Zurich 51.8	Sao Paulo 219.5	Mexico City 106.4	Washington, D.C. 103.8
36	Barcelona 149.2	Milan 23.5	Cairo 50.1	Istanbul 216.8	Mumbai 105.4	Fukuoka 100.6
37	Milan 142.0	Sao Paulo 16.2	Mumbai 47.6	Mexico City 203.6	Moscow 88.9	Los Angeles 98.7
38	Sao Paulo 133.1	Mexico City 9.9	Geneva 31.8	Cairo 202.6	Cairo 83.1	Geneva 85.7
39	Mumbai 111.7	Mumbai 7.8	Fukuoka 27.3	Washington, D.C. 202.1	Shanghai 78.6	Mumbai 75.1
40	Cairo 98.5	Cairo 4.9	Taipei 25.5	Moscow 195.8	Beijing 69.7	Sao Paulo 73.2

経営者 研究者 アーティスト 観光客 生活者

アクター別ランキング

ランク	経営者	研究者	アーティスト	観光客	生活者
1	London 61.2	New York 65.7	Paris 53.4	London 58.6	Paris 62.5
2	Singapore 59.7	London 55.5	New York 49.5	Paris 51.1	London 56.6
3	Hong Kong 55.3	Tokyo 53.0	London 46.2	New York 50.9	New York 56.1
4	New York 48.7	Paris 48.7	Berlin 46.2	Istanbul 44.6	Zurich 53.2
5	Beijing 47.6	Los Angeles 44.8	Vienna 46.0	Singapore 43.5	Frankfurt 52.5
6	Paris 46.5	San Francisco 42.4	Beijing 45.5	Tokyo 42.5	Berlin 52.4
7	Shanghai 46.2	Boston 38.9	Los Angeles 43.9	Beijing 42.2	Vienna 51.7
8	Tokyo 46.2	Singapore 37.7	Tokyo 43.1	Shanghai 41.8	Tokyo 51.5
9	Seoul 45.2	Chicago 36.4	Amsterdam 42.6	Bangkok 40.5	Stockholm 50.3
10	Kuala Lumpur 45.1	Seoul 36.3	Barcelona 40.6	Berlin 40.4	Amsterdam 48.8
11	Berlin 42.6	Hong Kong 32.3	Madrid 39.9	Barcelona 39.7	Geneva 48.7
12	Stockholm 41.9	Washington, D.C. 31.7	Mexico City 38.1	Vienna 38.6	Boston 48.4
13	Taipei 41.9	Sydney 31.0	Chicago 37.3	Amsterdam 37.6	Copenhagen 48.0
14	Amsterdam 41.8	Berlin 30.9	Shanghai 37.1	Hong Kong 36.3	Washington, D.C. 47.9
15	Istanbul 40.7	Osaka 30.8	Washington, D.C. 37.0	Madrid 36.1	Milan 47.2
16	Copenhagen 40.6	Beijing 30.7	Toronto 36.5	Seoul 34.6	Vancouver 47.2
17	Zurich 40.3	Toronto 26.8	Vancouver 36.1	Toronto 32.5	San Francisco 46.6
18	Toronto 40.3	Vancouver 25.6	Milan 36.0	Brussels 32.4	Toronto 46.0
19	Vienna 39.6	Zurich 25.5	Stockholm 35.3	Milan 32.3	Hong Kong 45.3
20	Bangkok 39.2	Moscow 25.4	Brussels 35.3	Sydney 31.7	Osaka 45.0
21	Vancouver 39.2	Vienna 25.1	Frankfurt 34.5	Frankfurt 31.5	Sydney 44.7
22	Boston 38.4	Stockholm 25.0	Copenhagen 34.4	Kuala Lumpur 31.1	Brussels 44.3
23	Frankfurt 38.1	Amsterdam 24.0	Istanbul 33.9	Chicago 30.5	Madrid 44.0
24	Geneva 38.1	Geneva 22.8	Osaka 33.4	Mexico City 29.6	Seoul 43.6
25	Osaka 35.5	Copenhagen 21.4	Bangkok 33.4	Osaka 29.4	Singapore 43.2
26	Washington, D.C. 35.2	Shanghai 20.5	San Francisco 33.1	Boston 29.0	Barcelona 43.0
27	Barcelona 35.0	Frankfurt 20.1	Fukuoka 32.6	Vancouver 29.0	Fukuoka 43.0
28	Chicago 34.9	Bangkok 20.1	Sydney 32.2	San Francisco 28.6	Taipei 42.8
29	Sydney 34.8	Madrid 19.9	Sao Paulo 31.9	Washington, D.C. 27.7	Los Angeles 41.9
30	Brussels 34.3	Milan 19.8	Kuala Lumpur 31.9	Zurich 27.5	Beijing 41.1
31	San Francisco 33.6	Fukuoka 19.2	Moscow 31.0	Los Angeles 27.2	Shanghai 41.0
32	Fukuoka 32.7	Istanbul 19.2	Mumbai 30.9	Stockholm 26.7	Chicago 40.1
33	Madrid 32.7	Taipei 19.1	Cairo 30.7	Copenhagen 26.6	Moscow 37.3
34	Los Angeles 32.2	Brussels 18.6	Boston 30.1	Cairo 26.3	Kuala Lumpur 33.6
35	Milan 31.3	Barcelona 17.7	Seoul 29.3	Taipei 25.7	Istanbul 32.9
36	Mumbai 28.5	Mexico City 17.4	Zurich 28.4	Moscow 25.3	Mexico City 32.9
37	Mexico City 26.6	Kuala Lumpur 17.2	Taipei 27.4	Mumbai 23.7	Sao Paulo 32.1
38	Moscow 24.4	Sao Paulo 15.8	Geneva 26.2	Fukuoka 23.1	Bangkok 31.1
39	Sao Paulo 24.3	Mumbai 13.6	Hong Kong 19.6	Geneva 21.8	Mumbai 27.9
40	Cairo 23.2	Cairo 11.6	Singapore 18.9	Sao Paulo 20.5	Cairo 25.8

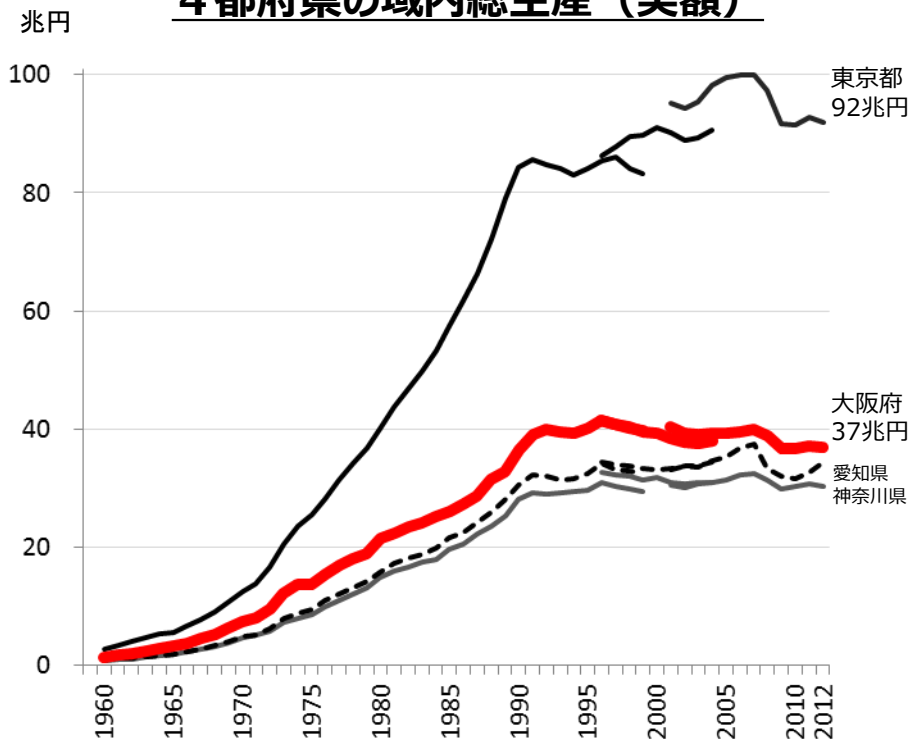
1. 大阪の現状と課題

(2)分野別の状況

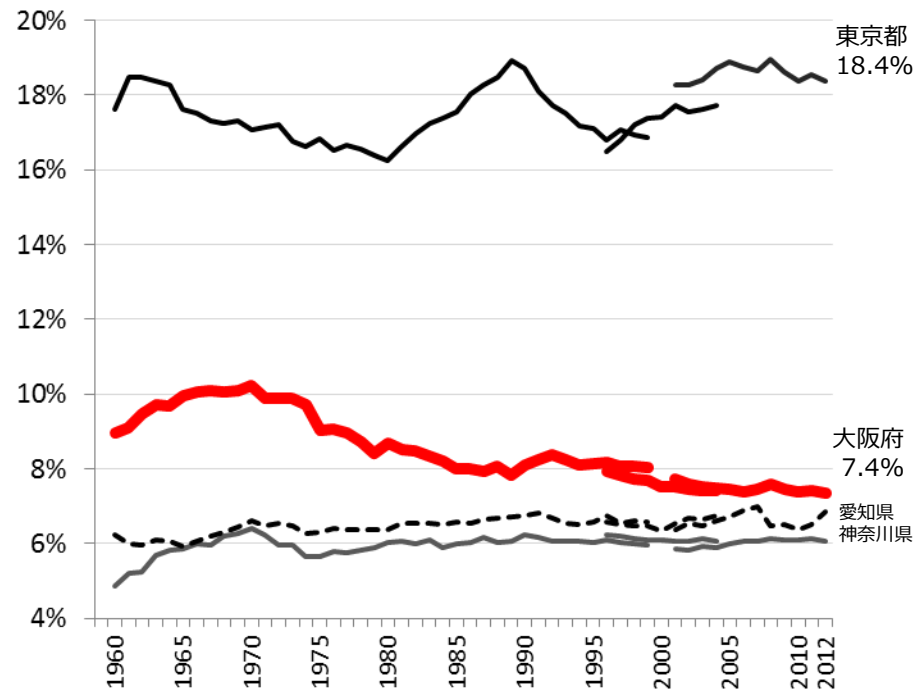
分野別の状況 <①経済・産業／域内総生産>

- 大阪府（大阪市）の域内総生産は、他都市と比べ相対的に下落傾向にある

4 都府県の域内総生産（実額）

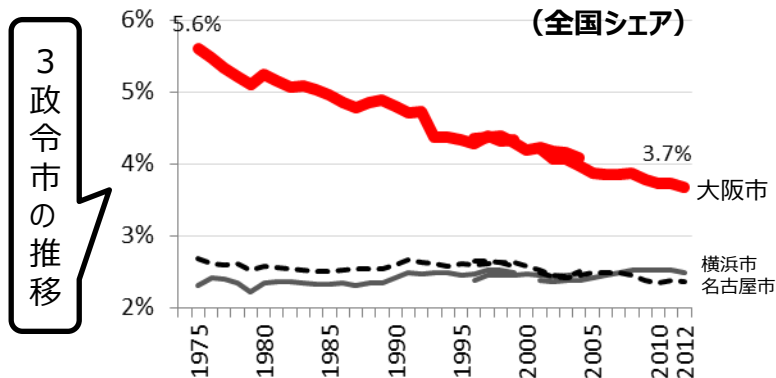


4 都府県の域内総生産（全国シェア）



出展：内閣府統計データ 県民経済計算

折れ線グラフは左から、1980年基準、1995年基準、2005年基準を標記。それぞれ重複年を前後5年取っている

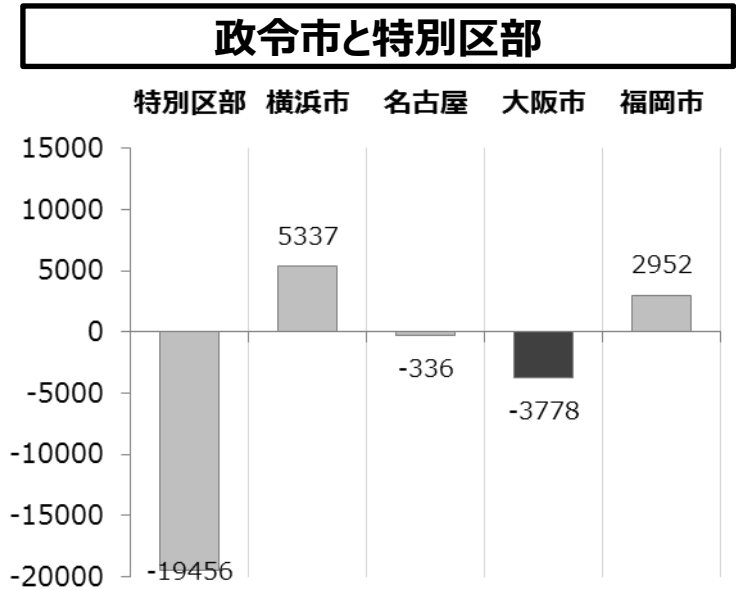
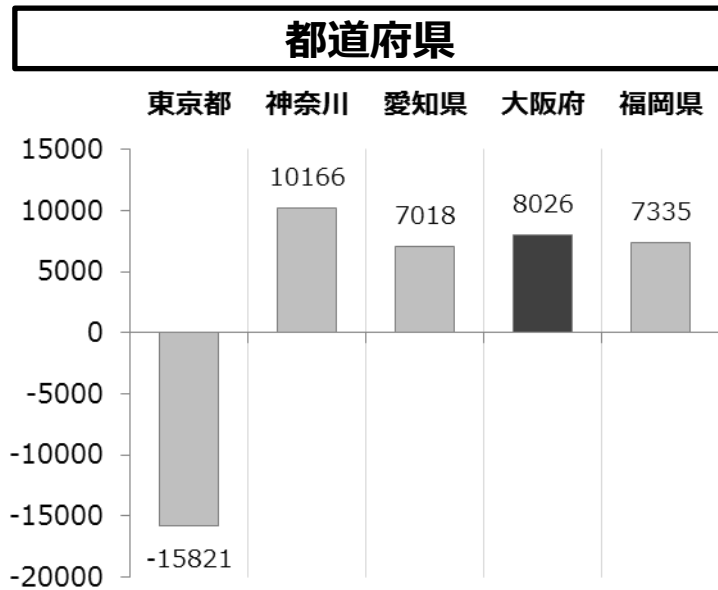


3 政令市の推移

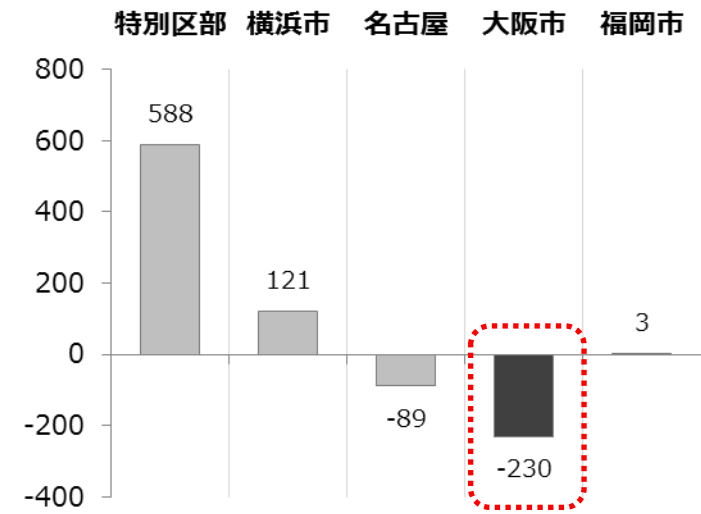
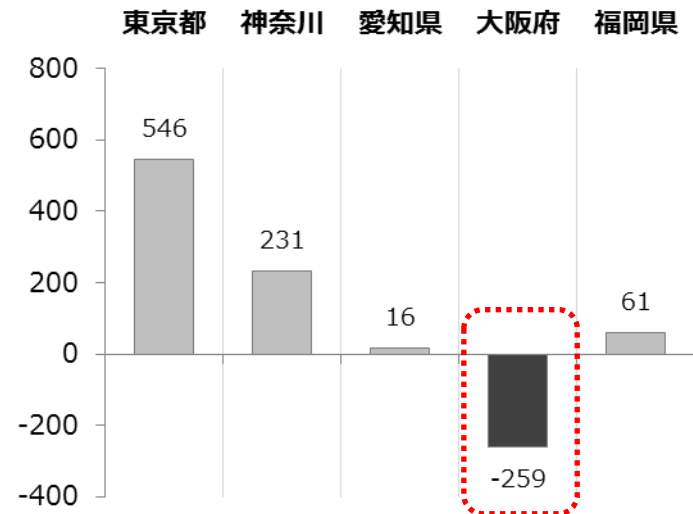
分野別の状況 <①経済・産業／企業数の増減> 2001年⇒2014年の増減

- 大阪府（大阪市）は特に資本金1億円超企業の減少が顕著

全企業



資本金1億円超企業



分野別の状況 <①経済・産業／企業の流出・分散>

大阪府 転入・転出企業件数の推移

年	転入	転出	転入－転出
2005	164	252	△ 88
2006	160	284	△ 124
2007	132	251	△ 119
2008	149	238	△ 89
2009	146	256	△ 110
2010	156	244	△ 88
2011	155	251	△ 96
2012	164	218	△ 54
2013	156	232	△ 76
2014	141	198	△ 57
計	1523	2424	△ 901

東京都 転入・転出企業件数の推移

年	転入	転出	転入－転出
2005	586	835	△ 249
2006	629	829	△ 200
2007	559	666	△ 107
2008	544	793	△ 249
2009	509	875	△ 366
2010	501	857	△ 356
2011	553	754	△ 201
2012	626	760	△ 134
2013	569	729	△ 160
2014	598	675	△ 77
計	5674	7773	△ 2099

大阪からの転出先 トップ3都道府県

- 1 兵庫県 843件(34.8%)
- 2 東京都 358件(14.8%)
- 3 奈良県 259件(10.7%)

東京からの転出先 トップ3都道府県

- 1 神奈川県 2412件(31.0%)
- 2 埼玉県 2107件(27.1%)
- 3 千葉県 1358件(17.5%)

※帝国データバンク「特別企画：東京都・本社移転企業調査」「特別企画：大阪府・本社移転企業調査」より抜粋

大阪から本社を移転した企業(例)	大阪本社企業(例)
日清食品(食料品) アステラス製薬(医薬品) フジテック(機械) コニカミノルタ(精密機械) 丸紅(卸売) 住友商事(卸売) オートバックスセブン(卸売) ローソン(小売) Jフロントリテイリング(小売) 商船三井(海運) USEN(情報通信) 三菱UFJフィナンシャル(金融) 三井住友フィナンシャル(金融) 等	日本ハム(食料品) 塩野義製薬(医薬品) 小野薬品(医薬品) 武田薬品(医薬品) パナソニック(電気機器) シャープ(電気機器) キーエンス(電気機器) ダイキン(電気機器) シマノ(輸送用機器) コクヨ(その他製品) カプコン(情報通信) ダスキン(サービス) ラウンドワン(サービス) 等

分野別の状況 <①経済・産業／産業構造>

- 1970年代以降、東京都はサービス業へのシフト、愛知県は自動車産業への転換を果たしたが、大阪は「何でもあるが、何にもない」状態。近年の製造業と卸・小売業の凋落の直撃を受け、産業構造の変化の波に乗り遅れた。

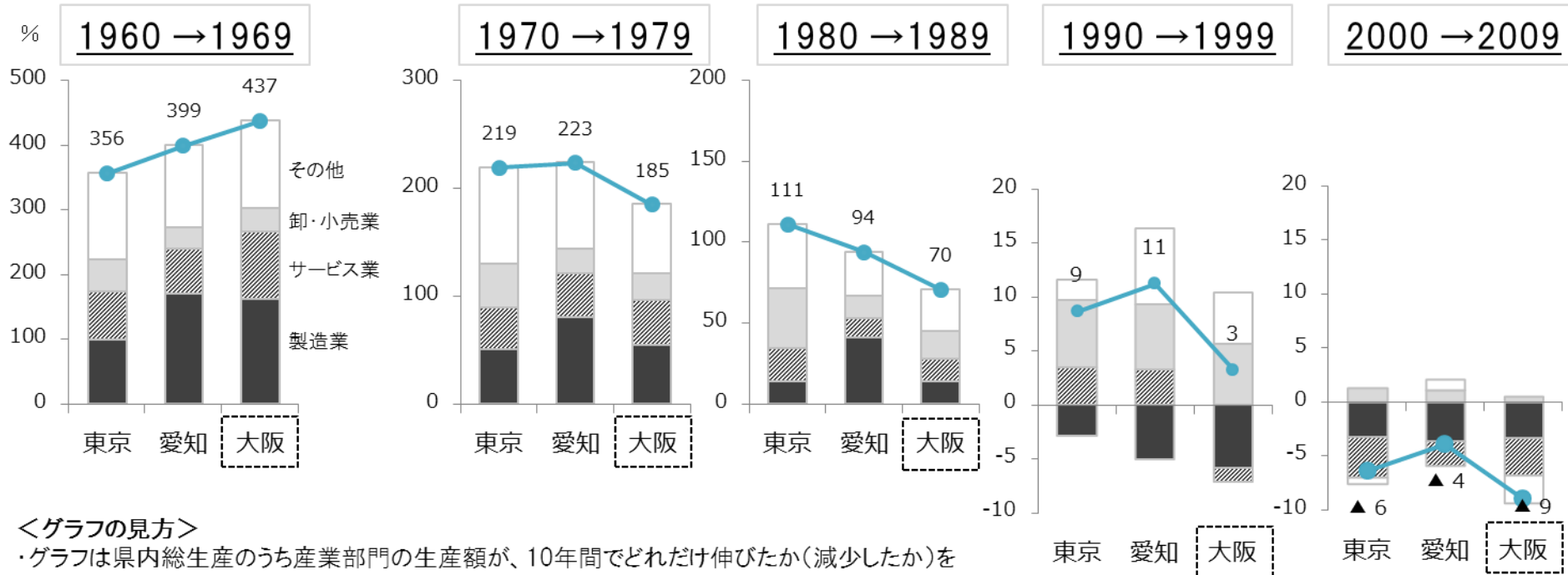
県内総生産(産業部門)の10年毎の伸び率と業態の変遷

大阪産業経済リサーチセンターのデータから作成

製造業、卸・小売業を中心に大阪が日本の高度経済成長を牽引

東京では情報通信等のサービス業が伸長。愛知では自動車産業が堅調。戦略性に欠けた大阪は次第に成長鈍化。

かつての「新しいものは大阪から」という時代が終わり、大阪は三大都市で「最も成長しない都市」になった。



<グラフの見方>

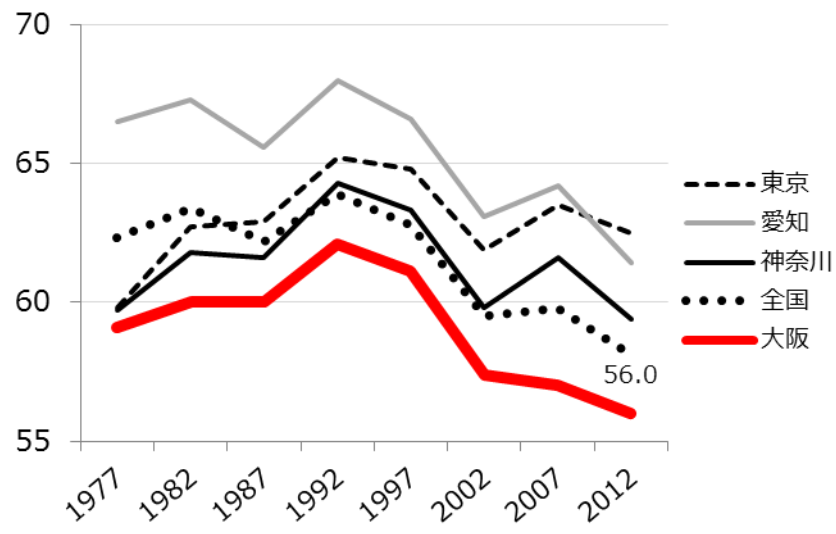
- グラフは県内総生産のうち産業部門の生産額が、10年間でどれだけ伸びたか(減少したか)を示している。例えば大阪は1960年から1969年にかけて産業部門が437%伸びた。
- なお、グラフを見やすくするため、グラフ縦軸のパーセントは年代によってスケールを変えている

分野別の状況 <①経済・産業／雇用状況>

- 大阪府（大阪市）は他都市に比べ、有業率が低く、失業率が高い。

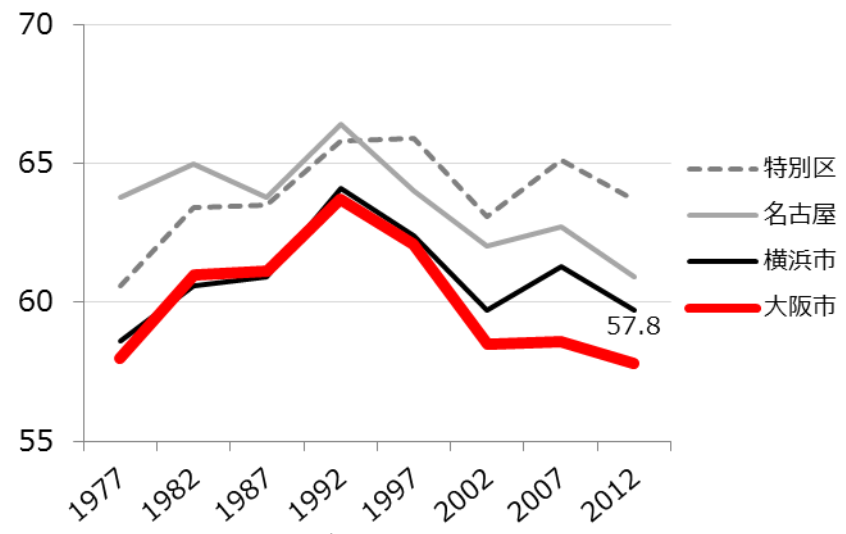
有業率%

都道府県



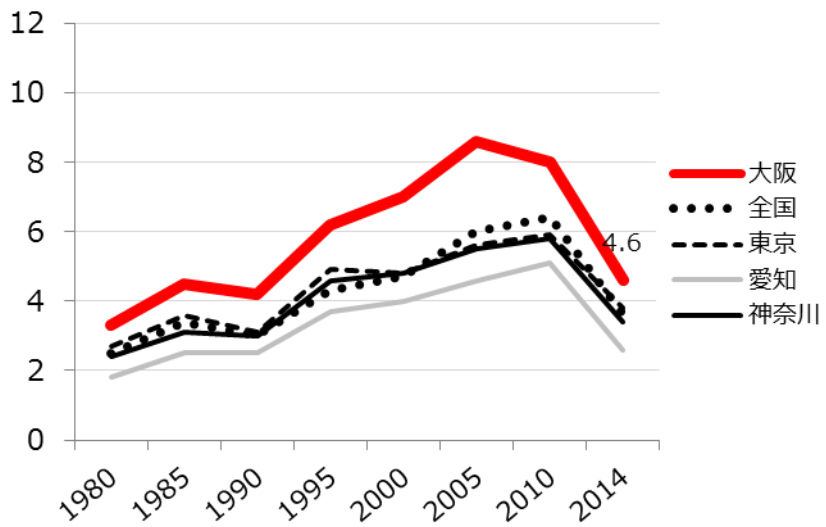
出典：就業構造基本調査

政令市と特別区部

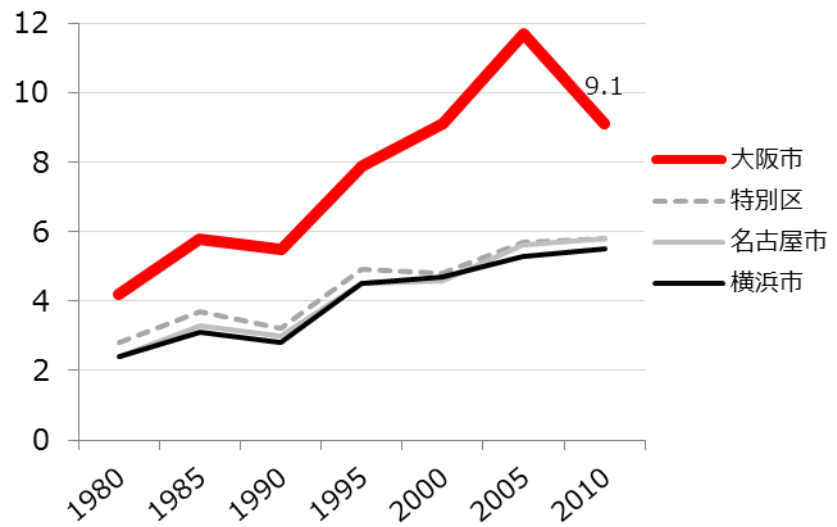


出典：就業構造基本調査

完全失業率%



出典：労働力調査



出典：国勢調査

分野別の状況 <②都市基盤／環状道路ネットワーク>

大阪圏は、都心部の環状道路ネットワークで重要な位置を占める淀川左岸線延伸部は、未整備（未だ計画段階）のまま。ミッシングリンクになっている。

一方、東京圏、名古屋圏では、ほぼすべての環状道路ネットワークでミッシングリンクの解消に目途。



- 開通済み
- 建設中
- 未整備(計画段階)

【東京圏】



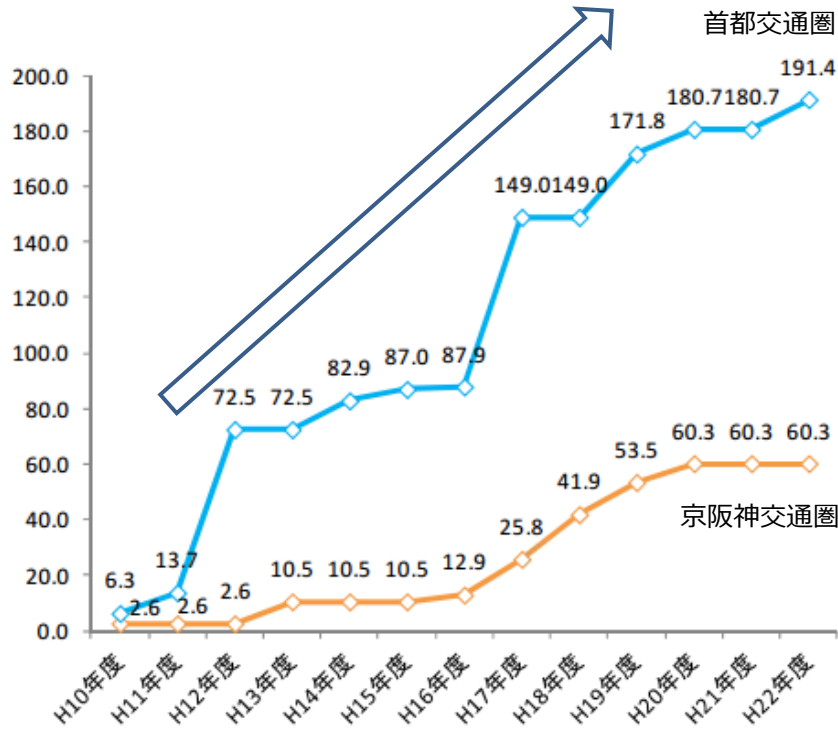
【名古屋圏】



分野別の状況 <②都市基盤／鉄道の域内ネットワーク>

- 平成10年度以降の鉄道整備では、首都圏に比べ、京阪神圏は1 / 3にとどまる。

新線整備延長キロの推移 (京阪神交通圏と首都交通圏)



※京阪神交通圏：概ね大阪駅を中心に半径50km
 ※首都交通圏：概ね東京駅を中心に半径50km

平成10年以降の開業路線一覧

<京阪神交通圏>

線名	区間	延長 km	開通年月日
国際文化公園都市モノレール線(彩都線)	万博記念公園～阪大病院前	2.6	H10.10.1
海岸線	三宮・花時計前～新長田	7.9	H13.7.7
東西線	六地藏～醍醐	2.4	H16.11.26
ポートアイランド線	市民広場～神戸空港	4.3	H18.2.2
けいはんな線	生駒～学研奈良登美ヶ丘	8.6	H18.3.27
8号線(今里筋線)	井高野～今里	11.9	H18.12.24
国際文化公園都市モノレール線(彩都線)	阪大病院前～彩都西	4.2	H19.3.19
東西線	二条～太秦天神川	2.4	H20.1.16
おおさか東線	久宝寺～放出	9.2	H20.3.15
中之島線	中之島～天満橋	3.0	H20.10.19
阪神なんば線	西九条～大阪難波	3.8	H21.3.20

<首都交通圏>

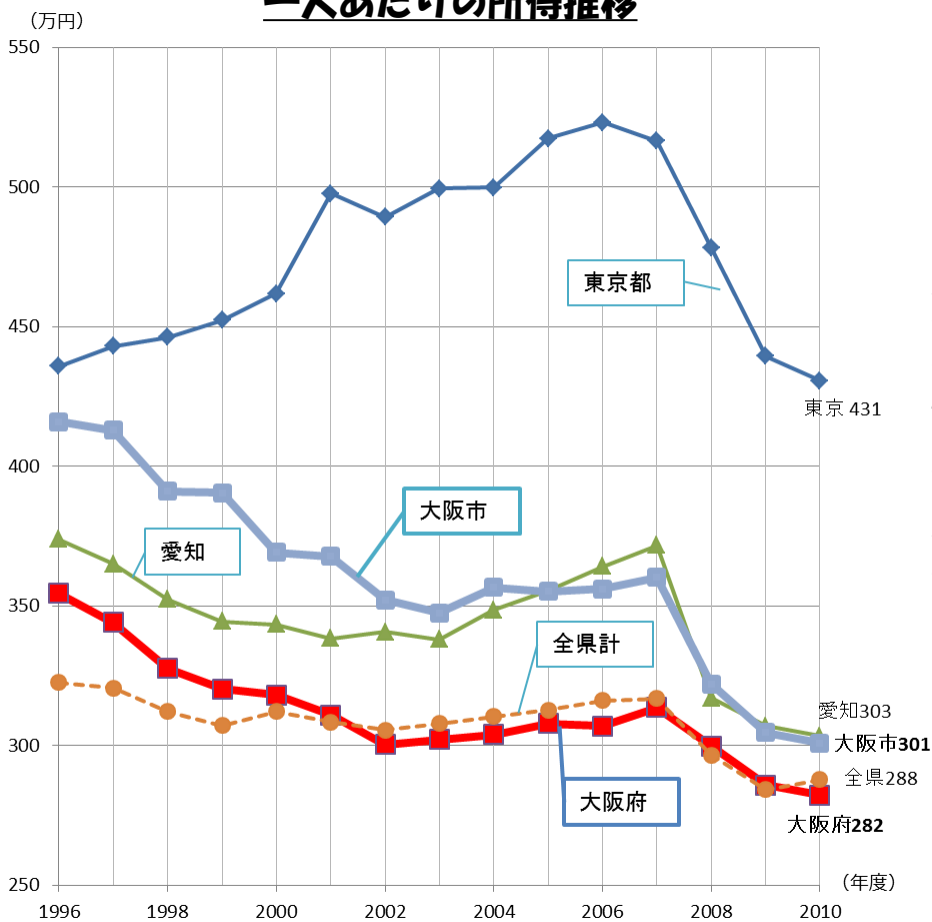
線名	区間	延長 km	開通年月日
空港線	天空橋～羽田空港	3.2	H10.11.18
いずみ野線	いずみ中央～湘南台	3.1	H11.3.10
1号線	戸塚～湘南台	7.4	H11.8.29
北総線	印西牧の原～印旛日本医大	3.8	H12.7.22
三田線	三田～白金高輪	1.7	H12.9.26
三田線	白金高輪～目黒	2.3	H12.9.26
南北線	溜池山王～目黒	5.7	H12.9.26
大江戸線	新宿～都庁前	27.8	H12.12.12
埼玉高速鉄道線	赤羽岩淵～浦和美園	14.6	H13.3.28
りんかい線	東京テレポート～天王洲アイル	2.9	H13.3.31
りんかい線	天王洲アイル～大崎	4.4	H14.12.1
半蔵門線	水天宮前～押上	6.0	H15.3.19
みなどみらい21線	横浜～元町・中華街	4.1	H16.2.1
東京モノレール羽田線	羽田空港第2ビル～羽田空港第1ビル	0.9	H16.12.1
常磐新線	秋葉原～つくば	58.3	H17.8.24
東京臨海新交通臨海線	有明～豊洲	2.8	H18.3.27
4号線	日吉～中山	13.1	H20.3.30
日暮里・舎人ライナー	日暮里～見沼代親水公園	9.7	H20.3.30
副都心線	池袋～渋谷	8.9	H20.6.14
成田高速鉄道アクセス線	印旛日本医大～成田空港高速鉄道線接続駅	10.7	H22.7.17

出典：近畿圏の鉄道と首都圏の鉄道との違いについて(近畿運輸局 2014)

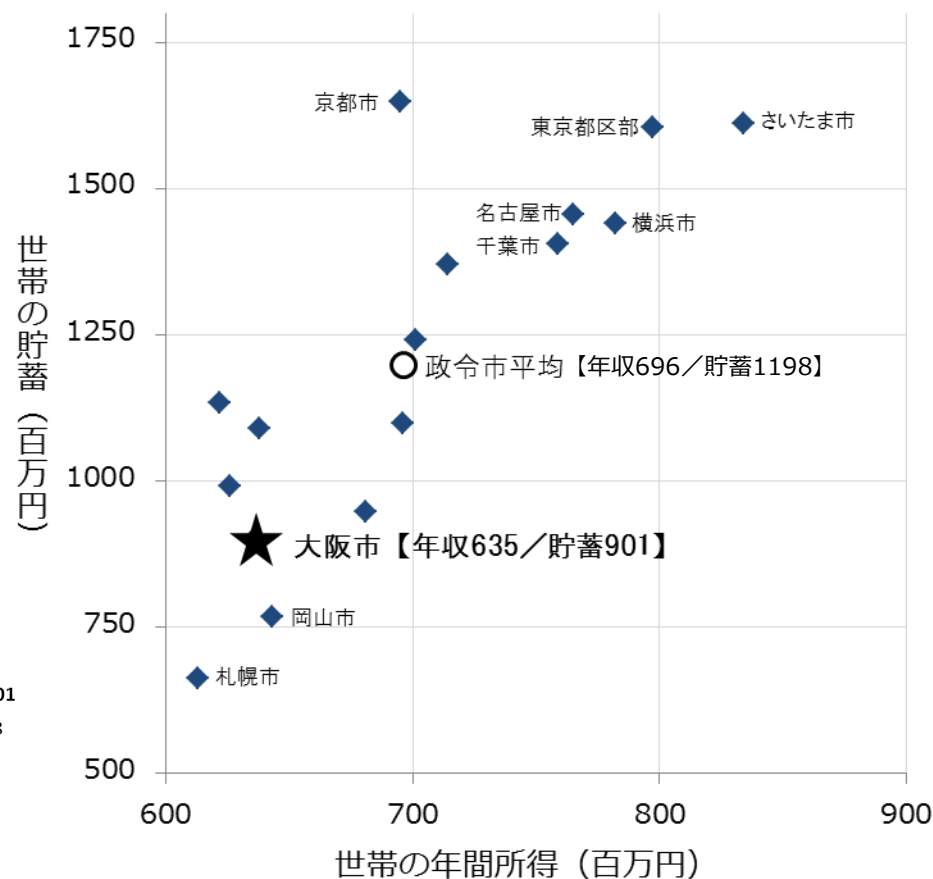
分野別の状況 <③府民生活／所得・貯蓄>

- 大阪府の一人当たりの所得は2002年度以降、全国値を下回り、2010年度で大阪府（282万円）は東京都（431万円）の7割弱
- 一方、大阪市は、世帯の所得と貯蓄の分布で、主要都市と比べて低いポジション

一人あたりの所得推移



世帯の年間所得と貯蓄の分布



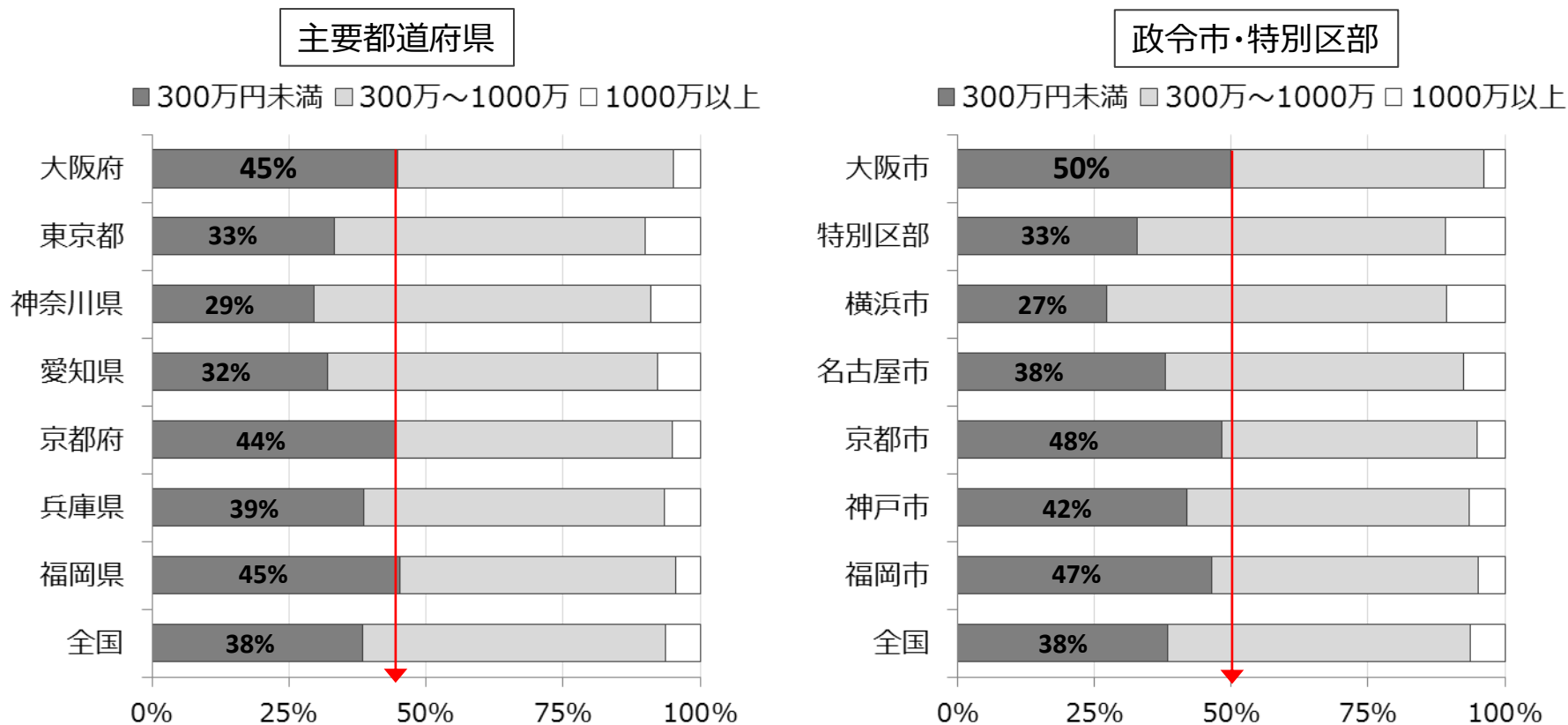
内閣府県民経済計算を元に府作成 (1996~2000:平成12年基準計数、2001~2010:平成17年基準計数)

出展:「家計調査報告(総務省)」H23年度/「二人以上の勤労者世帯」

分野別の状況 <③府民生活／世帯年収>

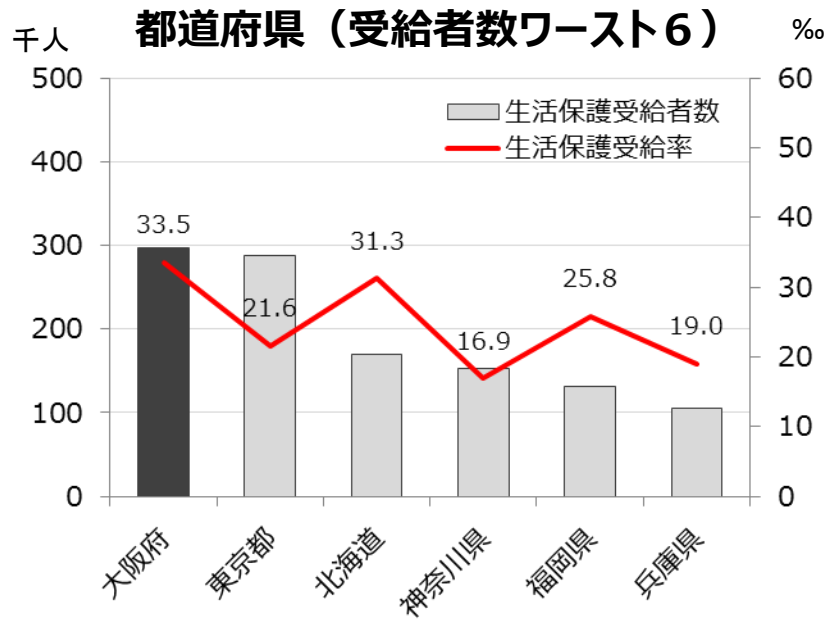
- 大阪府（大阪市）は、世帯年収300万円未満の世帯が5割近くを占め、他都市に比べても比率が高い傾向にある。

世帯年収の割合（3区分）

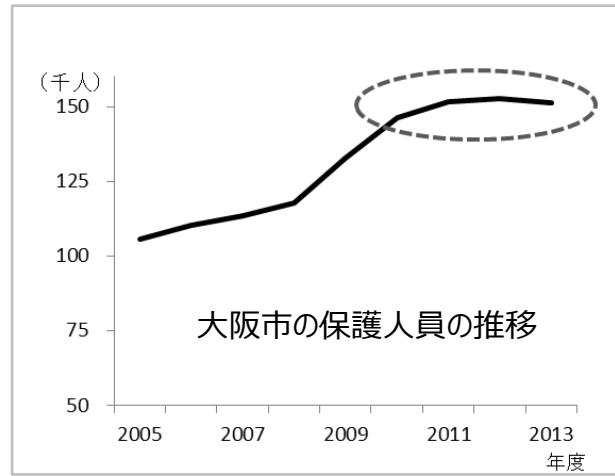
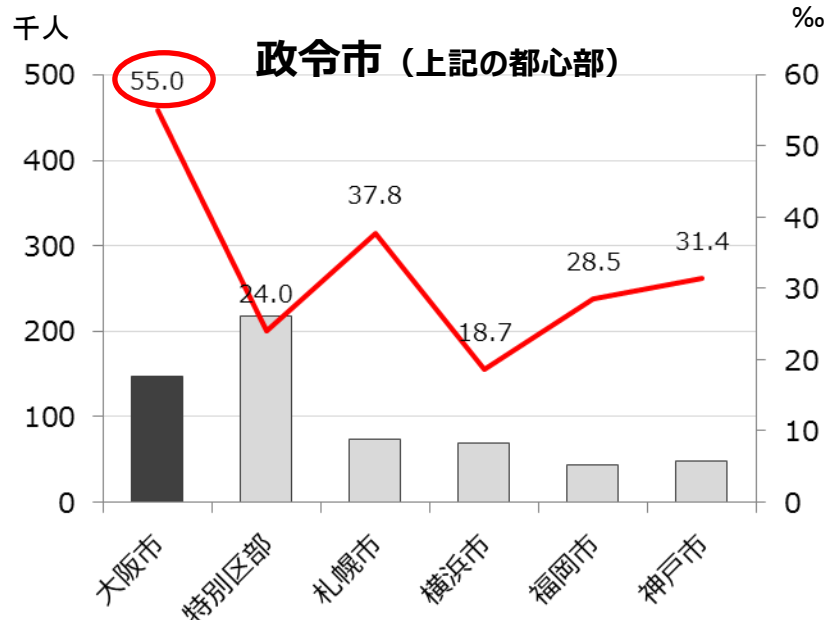


出典：住宅・土地統計調査 平成25年度

分野別の状況 <③府民生活／生活保護の状況>



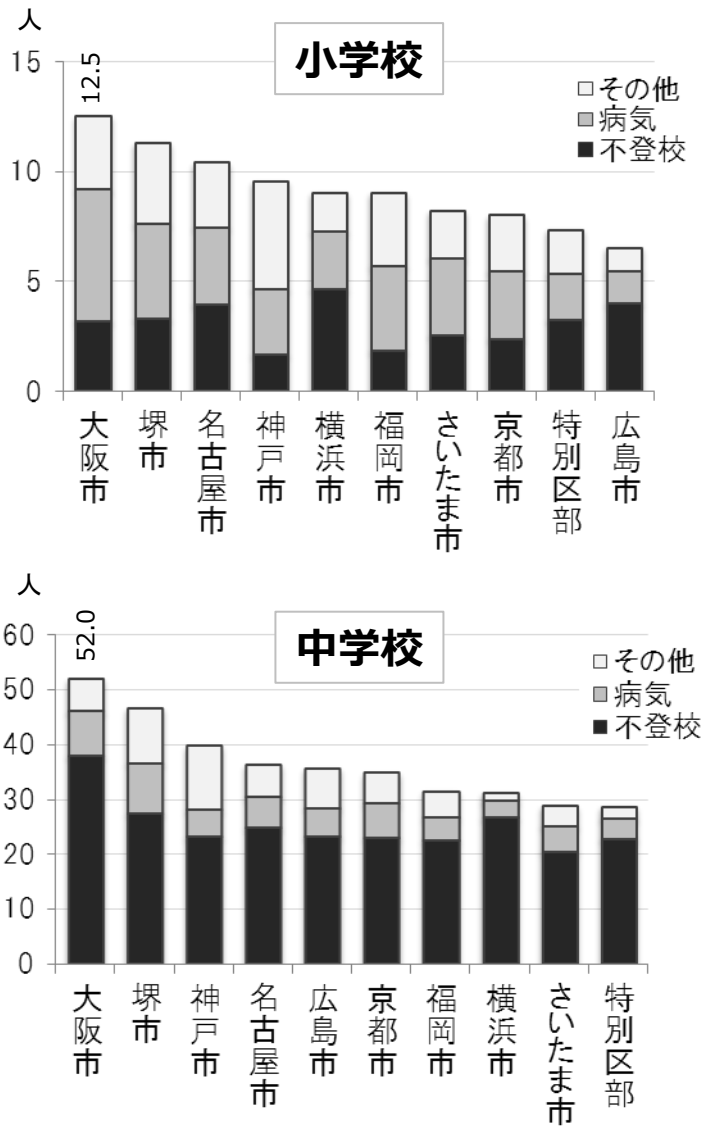
- 大阪府（大阪市）の生活保護の受給状況は近年下げ止まっているものの、依然として高い水準となっている。



出典：被保護者調査 平成26年度

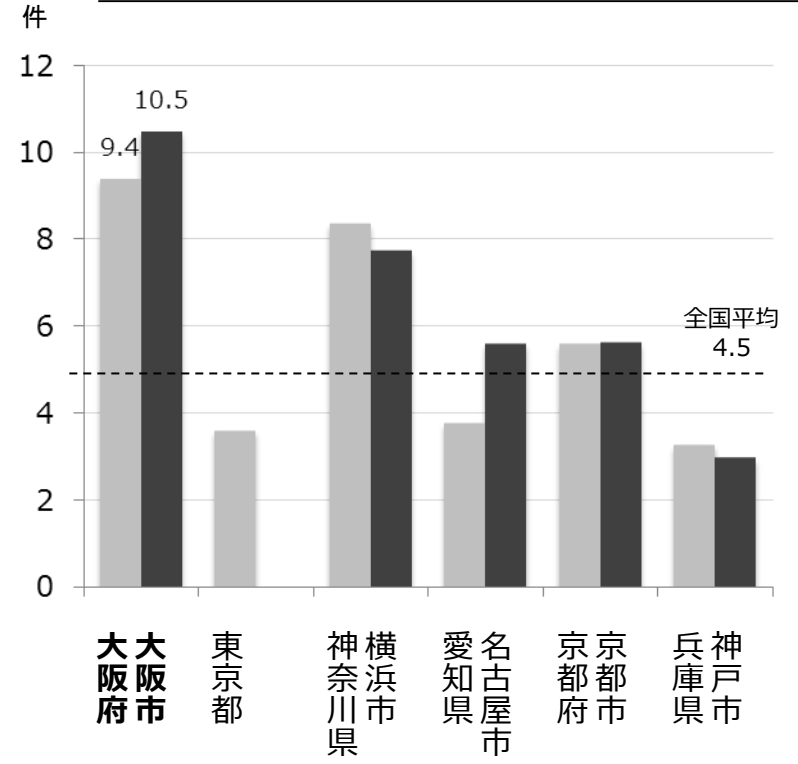
分野別の状況 <③府民生活／長期欠席や児童虐待の状況>

長期欠席生徒数 (全児童千人あたり)



- 大阪府（大阪市）は、長期欠席生徒数や児童虐待相談件数が多く、子どもをとりまく環境の改善が急がれる。

児童虐待相談件数 (14歳未満人口千人対)



出典：「児童相談所での児童虐待相談件数」H25（厚労省）

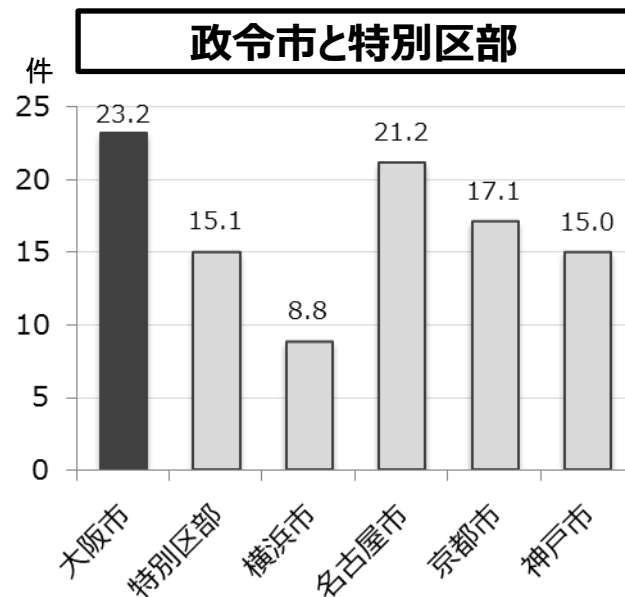
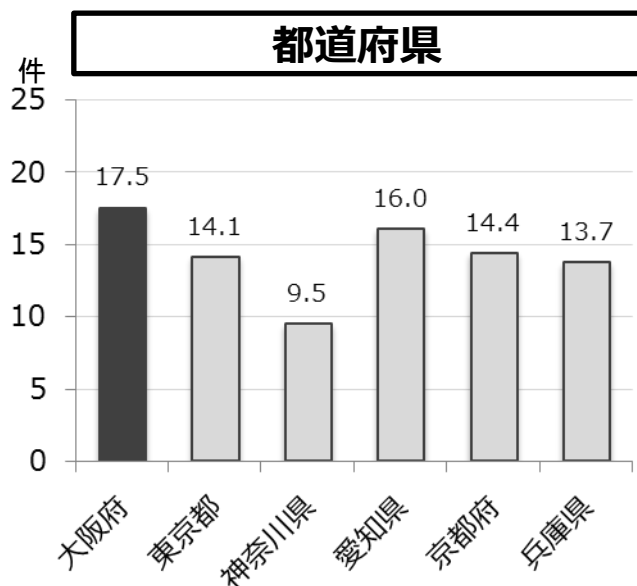
注意）児童虐待件数が多いことについては、児童相談者の対応が強化された結果とも言え、必ずしも「悪い指標」とは言いえないことから注意が必要

出展：学校教育調査（平成25年度）
*「長期欠席生徒」とは、年度間に通算30日以上欠席した生徒

分野別の状況 <③府民生活／治安状況>

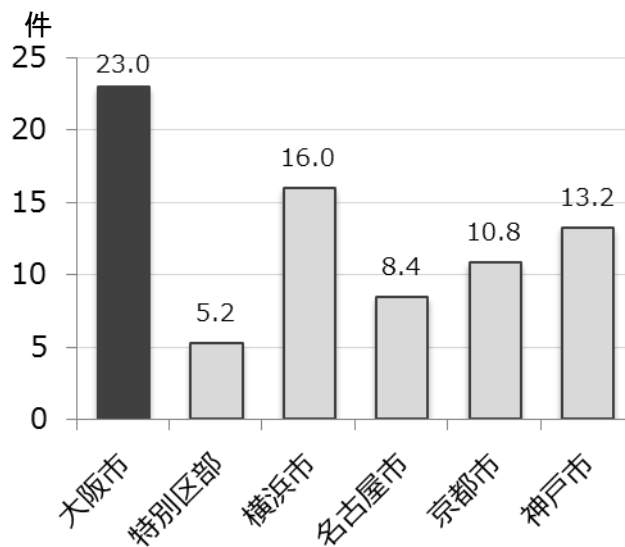
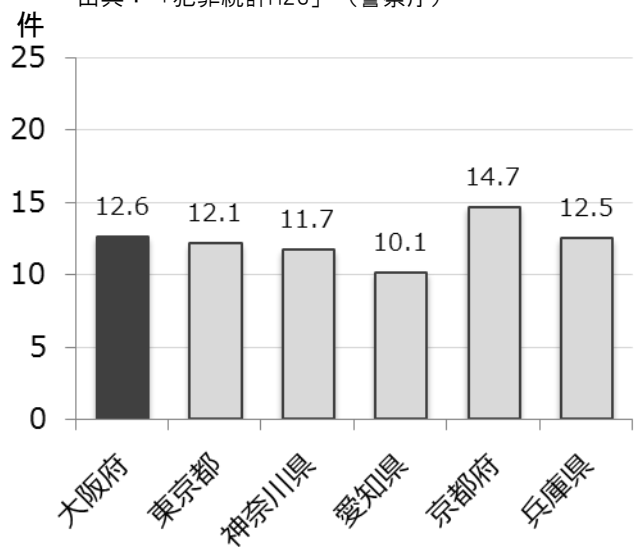
- 刑法犯認知件数、少年刑法犯検挙数とも、大阪府は相対的に高く、特に大阪市で高い。

刑法犯認知件数
(人口千人あたり)



出典：「犯罪統計H23」(警察庁)

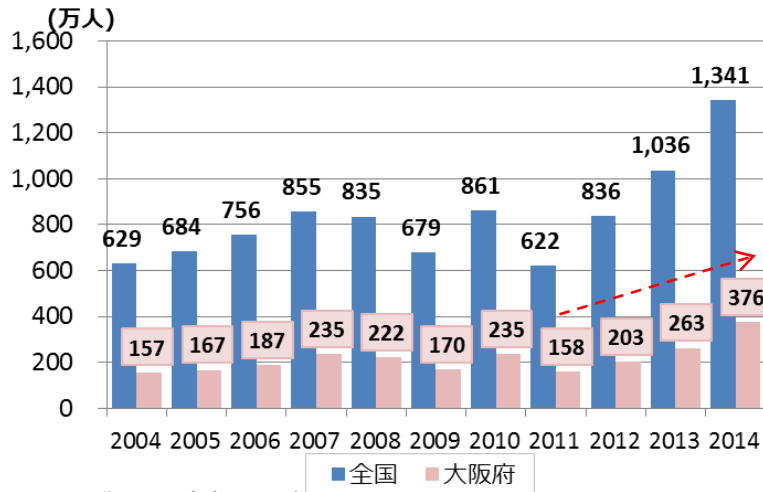
少年刑法犯検挙数
(対象年連人口千人あたり)



出典：「社会生活統計指標」H23(総務省)

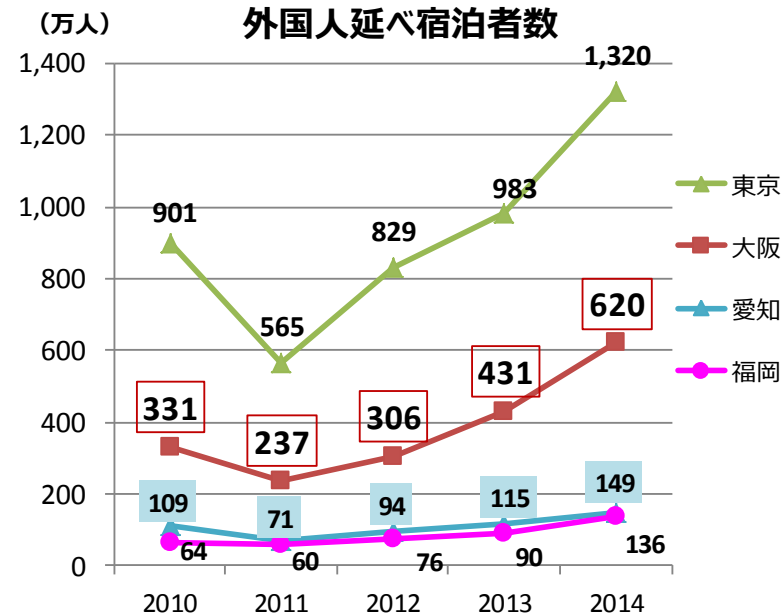
分野別の状況 <④都市活力／インバウンド>

外国人旅行者数



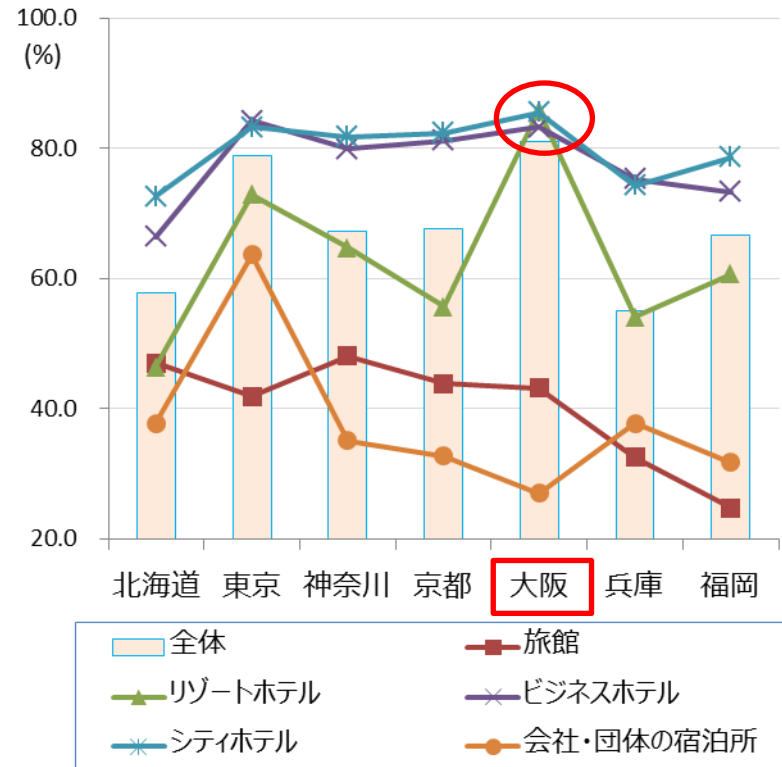
出典：大阪府府民文化部

- 大阪では外国人客数が増加傾向にあり、ホテルの客室稼働率も80%を超え、東京を凌ぐ高い水準となっている。



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」より大阪府企画室作成

タイプ別客室稼働率 2014年



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」2014(H26)年
※ 従業員数10人以下の施設については抽出調査

分野別の状況 <④都市活力／大阪で芽吹く明るい兆し>

- インバウンド観光の増加に加え、二つの特区（総合特区、国家戦略特区）指定、関空・伊丹の経営統合・コンセッション、うめきたやあべのハルカスの開業など、近年、大阪においては成長に向けた明るい兆しが見える。

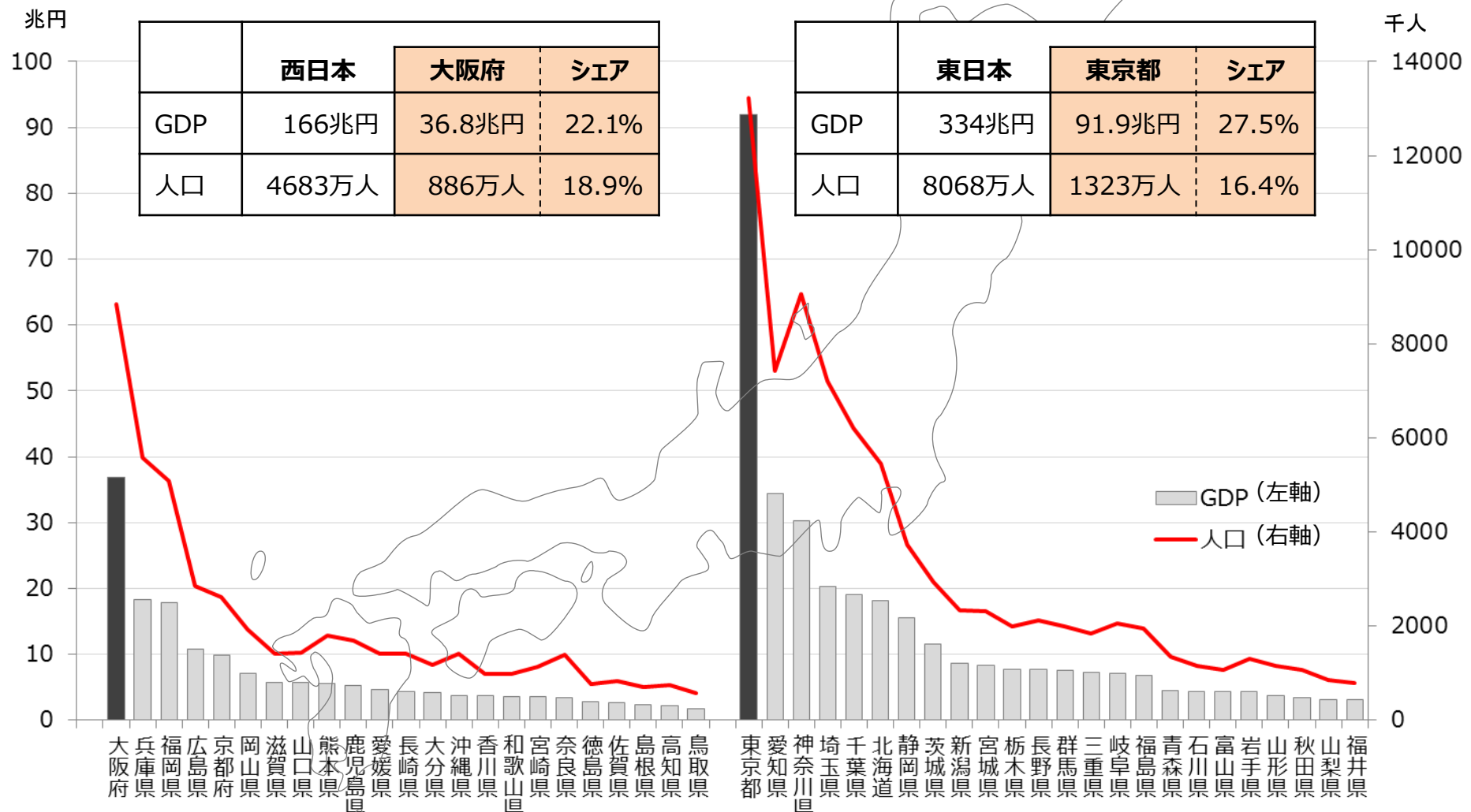
年度	都市格の向上	都市魅力の充実
2011年	12月 関西イノベーション国際戦略総合特区の指定	10月 第1回大阪マラソン開催
2012年	10月 関西国際空港LCC専用ターミナルビル開業	
2013年	4月 うめきた I 期（グランフロント大阪）オープン 10月 PMDA-WESTの開設	4月 大阪観光局の設置 6月 大阪城でRED BULL X-FIGHTERS OSAKA 2013開催 2013開催 12月 大阪・光の饗宴スタート
2014年	3月 あべのハルカス全面開業 3月 北大阪急行延伸について基本合意 4月 フェデックス北太平洋ハブの関空開業 6月 国家戦略特別区域に指定（府全域） 7月 NITEの大型 蓄電池実験施設建設決定 10月 阪神国際港湾(株)の設立	4月 U S J ・ハリーポッターのアトラクション開始 5月 大阪城でRED BULL X-FIGHTERS OSAKA 2014開催 10月 大坂の陣400年天下一祭スタート
2015年	11月 関空・伊丹コンセッション 優先交渉先決定 11月 A I G が大阪に第2拠点発表	4月 大阪城公園パークマネジメント導入 10月 天王寺公園“てんしば”オープン 11月 エキスポシティオープン

1. 大阪の現状と課題

(3) 主要指標における都市比較

主要指標における都市比較 <西日本と東日本のGDPと人口分布>

- GDPも人口も東京圏の規模が大きい「東高・西低」の構造となっており、東日本と西日本の差はいずれも2倍程度となっている。
- 他方、大阪は西日本で大きなシェアを占め、中核的な都市。



出典: GDPは総務省県民経済計算(2013)、人口は国勢調査(2010)

主要指標における都市比較

都市基盤関連

項目	年度	大阪／西日本		大阪／全国	
		順位	シェア	順位	シェア
人口	2014	1位	18.8%	3位	6.9%
人口密度	2010	1位	—	2位	—
県内総生産	2012	1位	22.1%	2位	7.4%
事業所数	2014	1位	20.7%	2位	7.5%
就業者数	2010	1位	18.0%	3位	6.4%
小売業事業所	2014	1位	14.9%	2位	5.8%
製造業事業所	2014	1位	28.6%	2位	9.5%
金融機関預金額	2014	1位	28.8%	2位	8.8%
ソフト系IT事業所	2013	1位	35.1%	2位	10.4%
研究所事業所数	2014	1位	10.1%	3位	5.9%
民鉄営業距離	2009	1位	17.3%	3位	6.0%

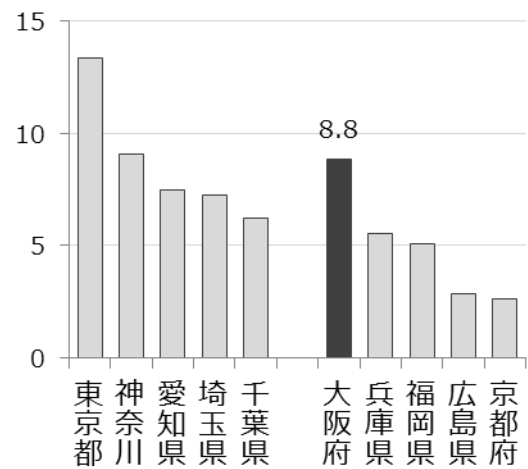
生活文化関連

項目	年度	大阪／西日本		大阪／全国	
		順位	シェア	順位	シェア
医療機関	2014	1位	18.0%	3位	7.0%
介護保険施設	2014	1位	11.5%	2位	5.0%
児童福祉施設	2014	1位	11.7%	4位	4.6%
保育所数	2014	1位	13.0%	3位	5.3%
幼稚園数	2015	1位	14.1%	2位	5.9%
小中学校数	2015	1位	12.3%	3位	5.0%
高等学校数	2015	1位	13.3%	3位	5.2%
大学数	2015	1位	18.5%	2位	7.1%
専修学校数	2015	1位	17.9%	2位	7.1%
図書館	2011	1位	11.7%	2位	4.4%
体育施設	2011	3位	7.0%	15位	2.4%

主要指標における都市比較 <西日本と東日本の上位5 / 都市基盤と自治体>

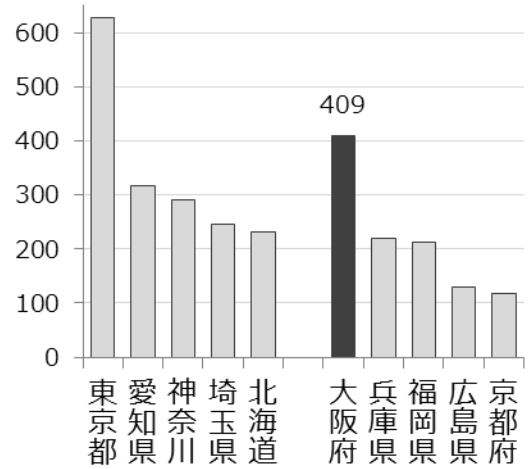
都市基盤指標

人口 (単位:百万人)



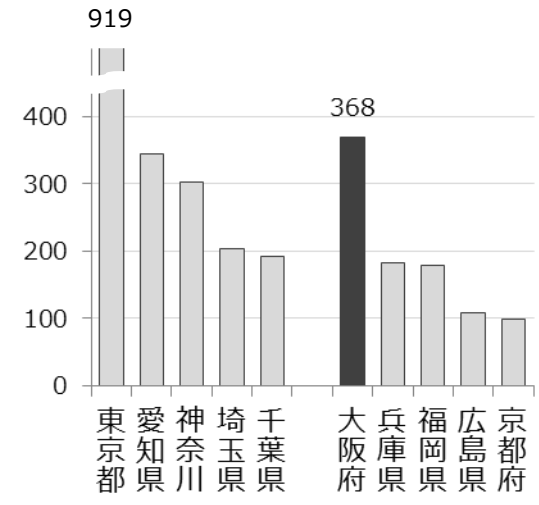
出典: 国勢調査 2010

全事業所数 (単位:千件)



出典: 経済センサス 2012

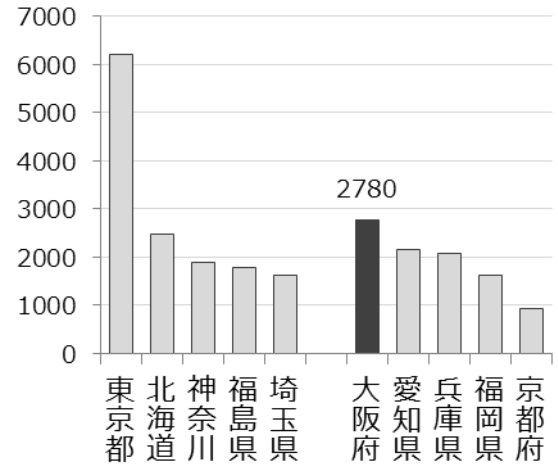
県内総生産 (単位:千億円)



出典: 県内経済計算(内閣府) 2013

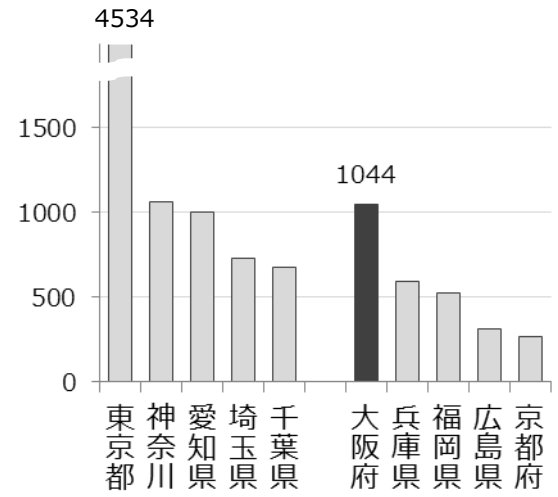
自治体指標

普通会計歳出 (単位:十億円)



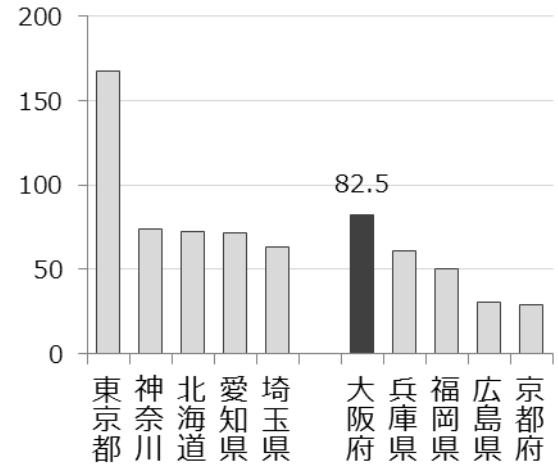
出典: 地方財政状況調査 2013

地方税収 (単位:十億円)



出典: 地方財政状況調査 2013

職員数 (単位:千人)

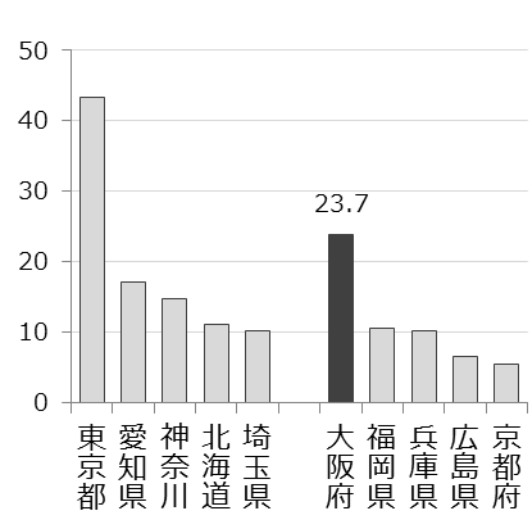


出典: 地方公共団体定員管理調査 2013

主要指標における都市比較 <西日本と東日本の上位5 / 産業・商業>

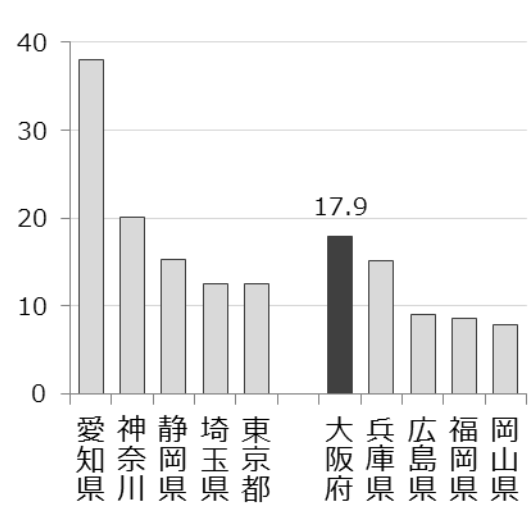
産業指標

本社数 (単位:千社)



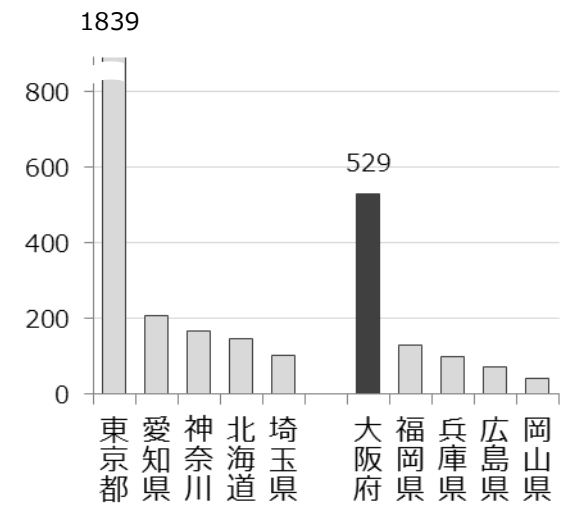
出典: 経済センサス 2012

製造業売上高 (単位:兆円)



出典: 経済センサス 2012

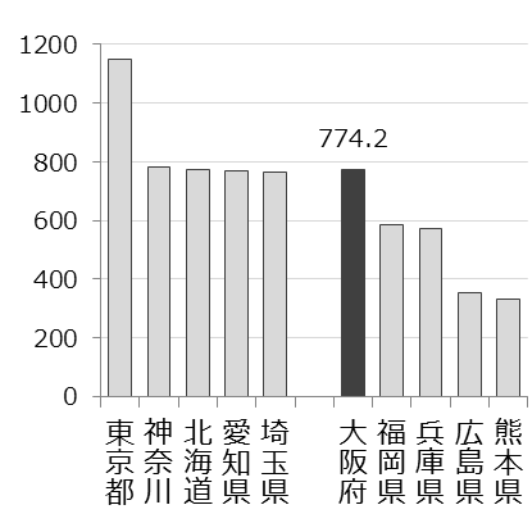
建設業完成工事高 (単位:百億円)



出典: 建設工事施行統計 2013

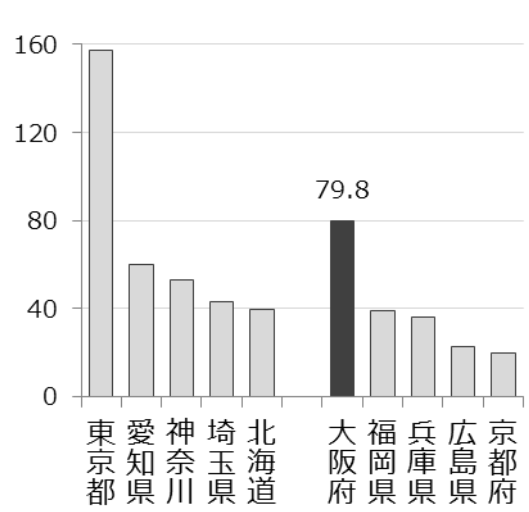
商業指標

小売業売場面積 (単位:兆円)



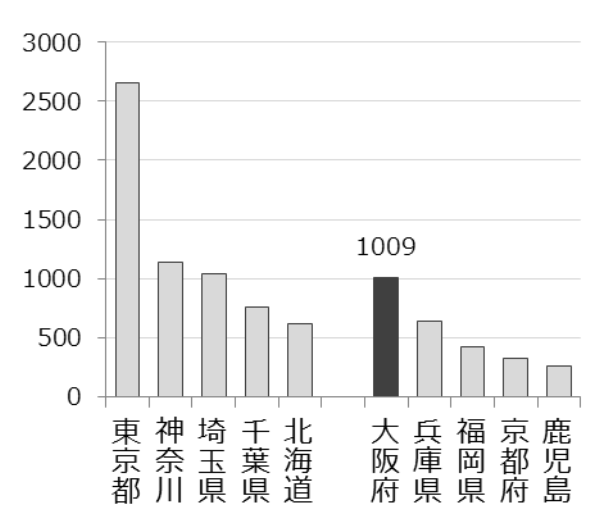
出典: 商業統計 2014

卸売、小売業従業員数 (単位:万人)



出典: 経済センサス 2012

商店街数 (単位:箇所)

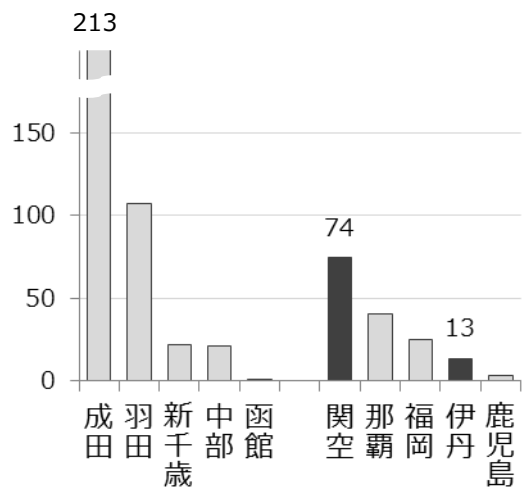


出典: 商店街実態報告書(中企庁) 2012

主要指標における都市比較 <西日本と東日本の上位5 / 交通物流・研究情報>

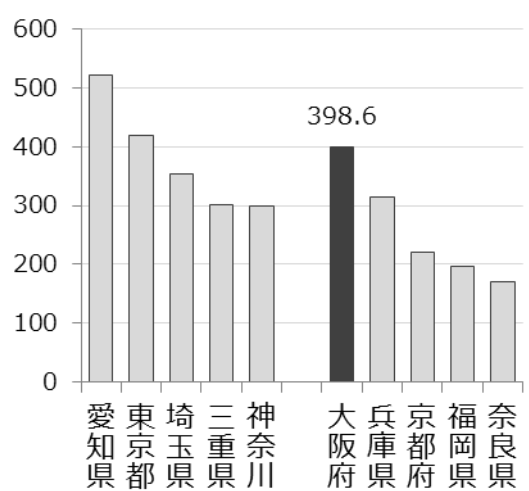
交通物流

空港貨物取扱量 (単位:万トン)



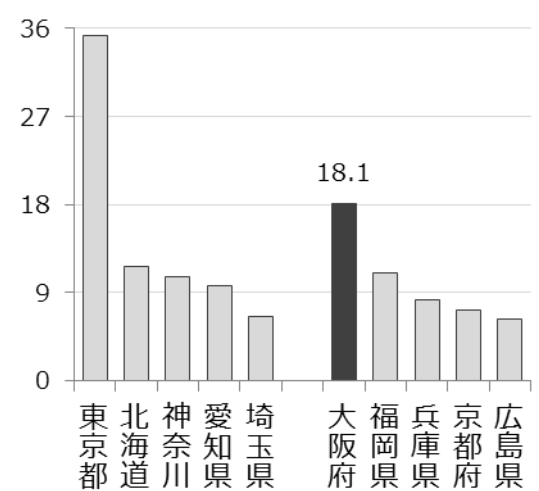
出典: 国交省空港管理状況 2014

民鉄営業キロ (単位:km)



出典: 地域交通年報 2010

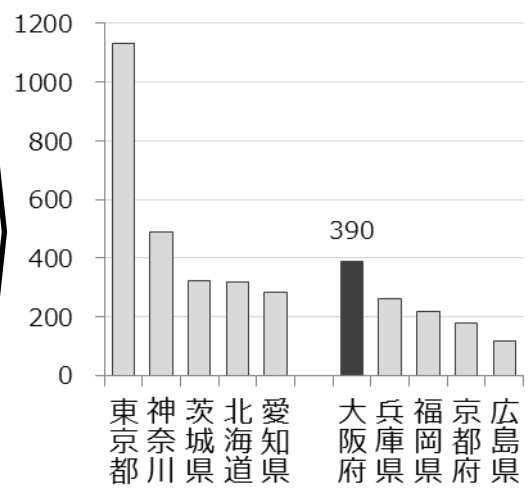
タクシー車両台数 (単位:千台)



出典: 地域交通年報 2010

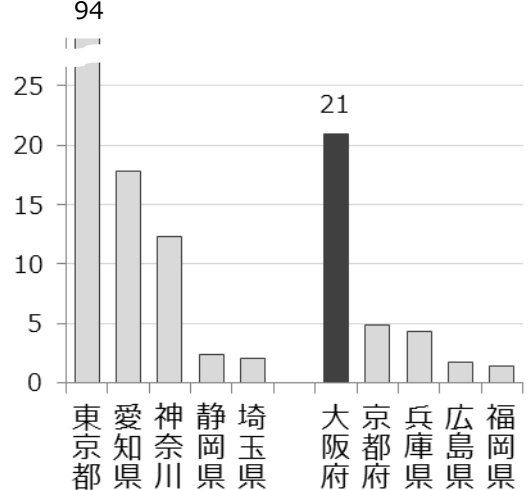
研究情報

研究所数 (単位:所)



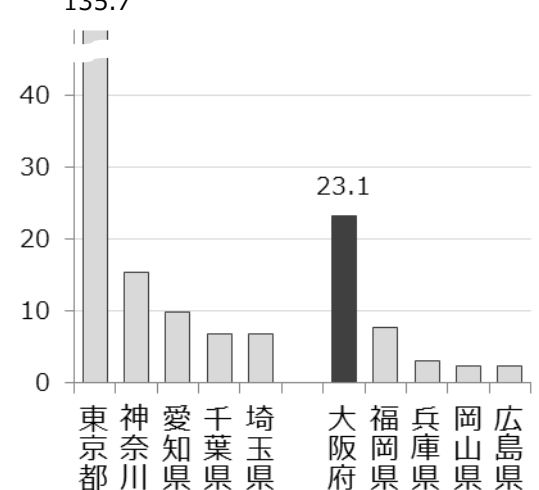
出典: 経済センサス 2014

特許登録件数 (単位:千件)



出典: 特許行政年次報告書 2015

情報処理・提供サービス従業者数 (単位:千人)

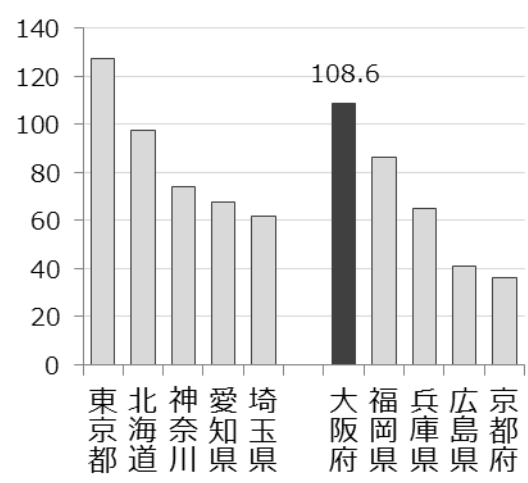


出典: 経済センサス 2014

主要指標における都市比較 <西日本と東日本の上位5 / 医療福祉・文化観光>

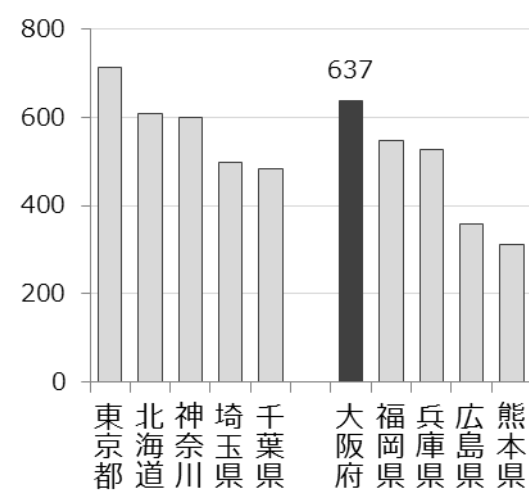
医療福祉

病床数 (単位:千床)



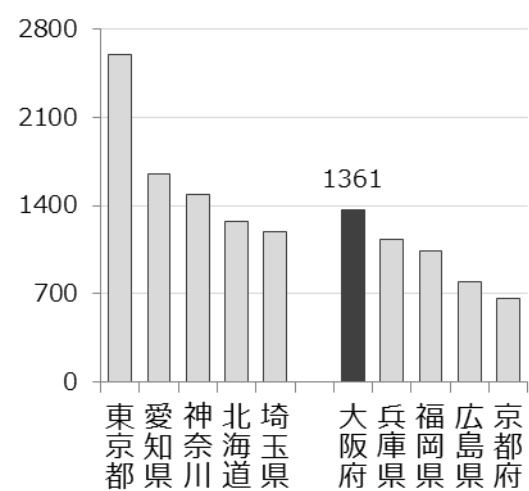
出典: 医療施設調査 2013

介護保険施設数 (単位:箇所)



出典: 介護サービス施設調査 2014

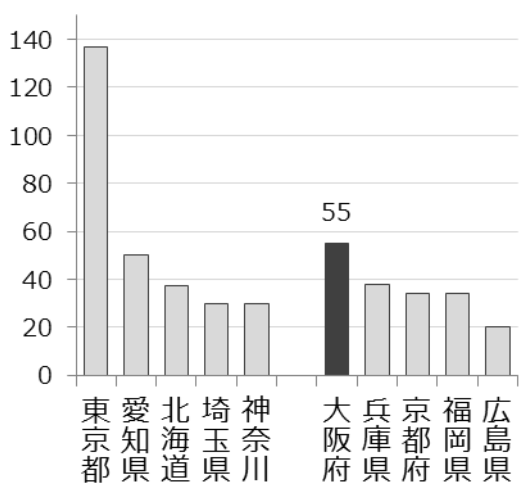
児童福祉施設数 (単位:箇所)



出典: 社会福祉施設調査 2014

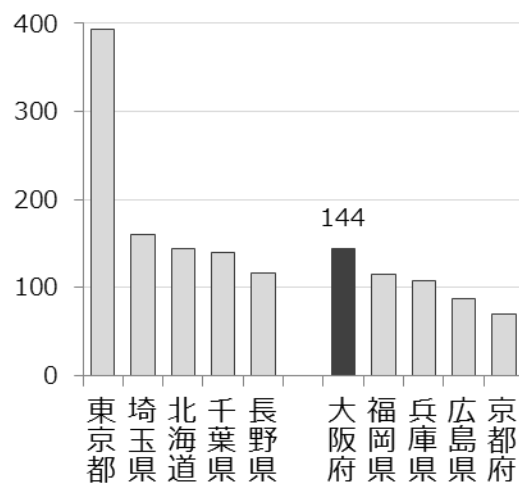
文化観光

大学数 (単位:校)



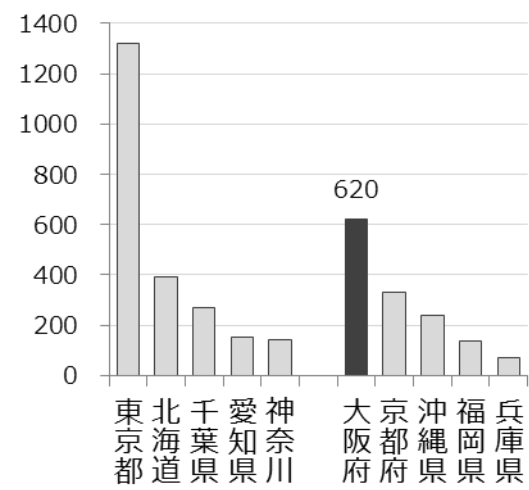
出典: 学校基本調査 2015

図書館 (単位:館)



出典: 社会教育調査 2011

外国人延べ宿泊者数 (単位:万人)



出典: 宿泊旅行統計調査 2014

1. 大阪の現状と課題

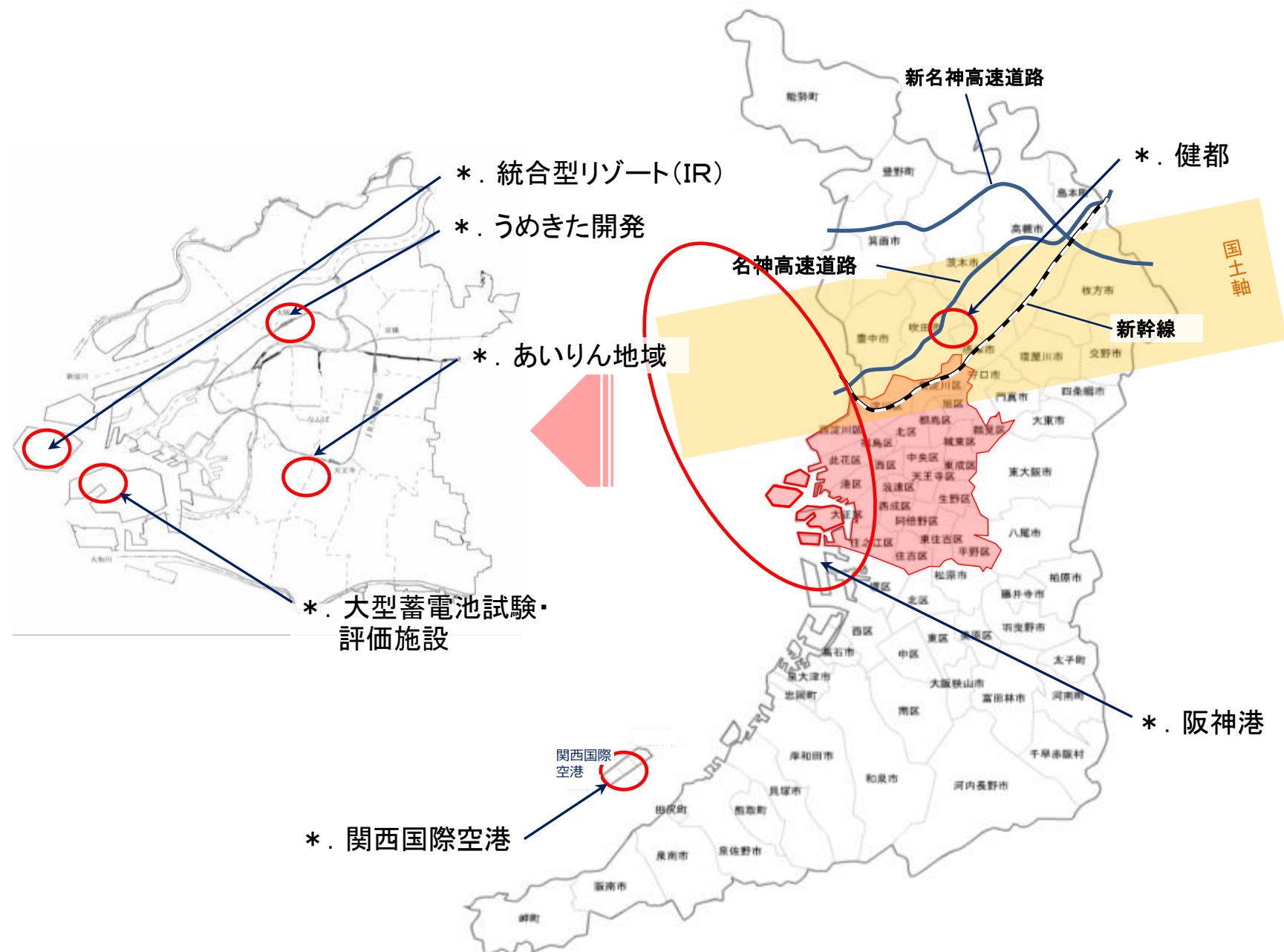
(4) 大阪の成長に向けた重点課題

大阪の成長に向けた重点課題（プロジェクト） <一覧>

政策分野	重点課題（プロジェクト）
経済成長戦略	<特区> ・ 国家戦略特区及び関西イノベーション国際戦略総合特区の活用等によるビジネス環境整備 <成長産業> ・ ライフサイエンス、環境・新エネルギー等をはじめとする国際的イノベーション拠点の形成 <人材力強化> ・ 英語教育の更なる充実、成長産業分野を支える人材の育成
まちづくり・都市基盤	<都市開発> ・ うめきた2期の推進 <交通・物流> ・ 高速道路の料金体系一元化とミッシングリンク解消によるネットワーク機能の強化 ・ 都市の競争力強化に資する公共交通戦略* ・ リニア中央新幹線、北陸新幹線の早期実現 ・ 関西国際空港、大阪湾諸港の活性化の促進
国際エンターテインメント都市の実現	<統合型リゾート（IR）> ・ 大阪市内ベイエリアにおける、様々な機能を持つIRの立地に向けた取り組み <国際博覧会> ・ 東京オリンピック・パラリンピックに続く国家プロジェクトとして、国際博覧会の大阪誘致を検討
防災・減災の強化、治安のさらなる向上	<大規模地震・津波対策> ・ 新・地震防災アクションプランに基づく、ハード・ソフト両面の自然災害対策の強化 <あいりん地域の環境整備> ・ 大阪府警や大阪市と連携した、あいりん地域の治安・安全対策の向上

公共交通戦略路線	概要		効果
	北大阪急行延伸	千里中央～新箕面	* 北大阪地域と大阪都心との直結 * 拠点形成とセットによる北大阪地域の活性化
	大阪モノレール延伸	門真市～瓜生堂	* 環状型鉄道ネットワークの形成 * 交通結節点の形成、都市構造を変革
	なにわ筋線	新大阪～JR・南海難波	* 関空アクセスの強化（JR、南海の梅田直結） * 大阪都心・国土軸へのアクセス

大阪の成長に向けた重点課題（プロジェクト） <マップ>



① 国家戦略特区

- イノベーションを創出する企業や人材を集積し、日本のツインエンジンを目指す。
- 大阪・関西圏から医療分野はじめ様々な規制改革提案、民間投資喚起につなげる。
- これまでに、医療、都市再生・まちづくり、雇用等の分野で16事業（大阪府内では8事業）が認定。

■ 関西圏国家戦略特別区域計画認定事業（下線は、大阪府関連事業）

【医療分野】

- ・保険外併用療養に関する特例（①大阪大学、②国立循環器病研究C、③京都大学）
- ・病床規制に係る医療法の特例（（仮称）神戸アイセンター）
- ・iPS細胞から製造する試験用細胞等への血液使用の解禁による研究用具製造事業（株iPSポータル（京都市））
- ・粒子線治療の研修に係る入管法施行規則の特例（兵庫県粒子医療C）
- ・設備投資に係る課税特例
 - ①iPS細胞由来の血小板製剤供給事業（株メガカリオン（京都市））
 - ②MEMSデバイスを用いたディスプレイ型医療機器の開発事業（株大研医器（和泉市））
- ・特区医療機器薬事戦略相談の実施（大阪大学）

【まちづくり・その他の分野】

- ・エリアマネジメントに係る道路法特例（①グランフロント大阪TMO②姫路市）
- ・歴史的建築物に係る旅館業法施行規則の特例（篠山市）
- ・地域限定保育士試験の実施（大阪府）
- ・NPO法人の設立手続の迅速化に係る特例（兵庫県・神戸市）
- ・「雇用労働相談センター」の設置（グランフロント大阪 ナレッジキャピタル内）
- ・国家戦略特別区域外国人滞在施設経営事業（大阪府（保健所設置市等は除く））

②関西イノベーション国際戦略総合特区

- 関西イノベーション国際戦略総合特区（9地区）では、全国最多の51プロジェクト92案件が計画認定（大阪府域では、33プロジェクト・49案件）（H27.11現在）
- 大阪では、国の支援に加え、最大で地方税がゼロとなる「特区税制」を創設
 - ・北大阪地区：ライフサイエンス産業の集積
 - ・夢洲・咲洲地区：「バッテリー戦略研究センター」開設（H24.7）
（蓄電池、太陽電池、燃料電池関連の新たなビジネスの創出支援）
 - ・大阪駅周辺地区：「PMDA関西支部」設置（H25.10）（薬事戦略相談等の実施）
 - ・関西国際空港地区：医薬品・医療機器の輸出入手続きの電子化・簡素化の実証実験（H25.3）等



○「大阪の成長戦略」を具体化するため、ライフサイエンス・新エネルギー分野など、大阪・関西の強みを活かしたさらなる成長の促進。

<ライフサイエンス産業>

- ・医薬品・医療機器等の開発における一貫した支援
（PMDA 関西支部の機能拡充（薬事に関する全ての相談の実施）など）
- ・国立循環器病研究センターを核とした「医療クラスター」の形成

<新エネルギー産業>

- ・バッテリー(蓄電池)、水素・燃料電池分野の新ビジネス創出環境整備
（バッテリー戦略研究センター事業（NITE(ナイト)の世界最大級の大型蓄電池の試験・評価施設の誘致等）、水素関連ビジネスの創出・拡大及び参入支援等）

■ 国立循環器病研究センターを核とした「医療クラスター」の形成 （北大阪健康医療都市（健都））



出典：医療クラスター形成会議資料

■ バッテリー戦略研究センターの取組み （NITE(ナイト)の大型蓄電池試験・評価施設）

- ・計画地：大阪市住之江区南港北1-36(約26,400㎡)
- ・内容：電力システムの安定化に役立つメガワット級の大型蓄電池の需要拡大を見込み、国内蓄電池メーカーが、大型蓄電池の性能及び安全性に関するグローバルな試験・評価を行う施設。

■位置図



■完成予想図(イメージ)



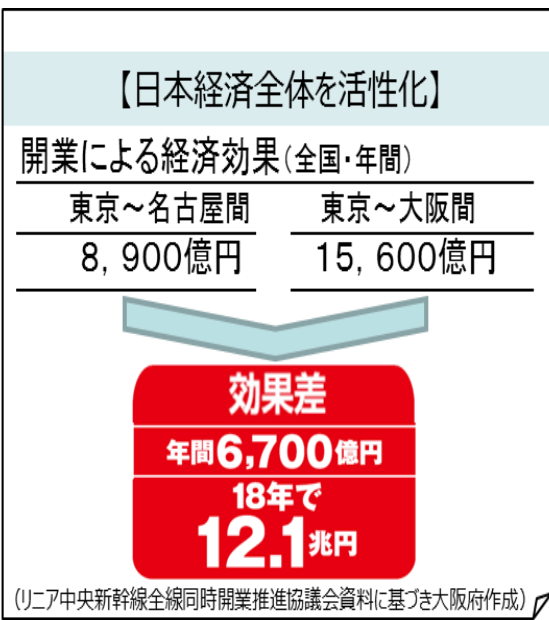
出典：（独）製品評価技術基盤機構(NITE)ホームページ

- リニア中央新幹線は、日本の大動脈の二重化を図るとともに、時間距離が飛躍的に短縮され、三大都市圏が一体化したスーパーメガリージョンの形成を支える、国土政策上極めて重要な国家的プロジェクト
- 日本再興戦略(改訂2015)や国土形成計画(H27.8閣議決定)をはじめとする国計画において、「リニア早期整備」が位置付け
- 国はJ R 東海へ全線の建設を指示。建設費用はJ R 東海が負担
東名間は着工済、2027年に開業予定。大阪開業はさらに18年先の2045年に開業の予定

■ ルート図

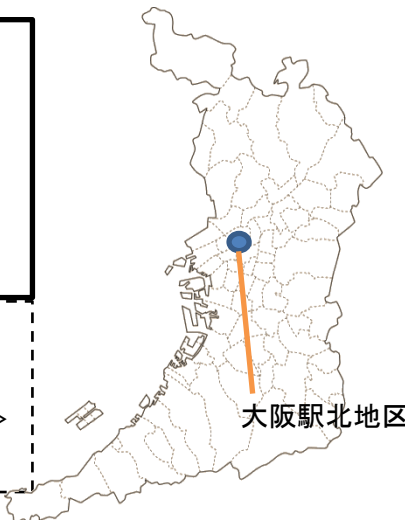


■ 経済効果



大阪の成長に向けた重点課題（プロジェクト） <うめきた（大阪駅北地区）のまちづくり>

- 関西の主要都市と鉄道・道路網により1時間程度で結ばれる**都市圏の中核に位置**し大阪の代表的なビジネス街や繁華街に近接
- 西日本最大の交通の要衝**であることを活かし、国内外の知的人材の交流拠点を形成するため、**知的創造拠点『ナレッジ・キャピタル』の構築**
- 次世代成長産業の集積や新産業の創出を促進し、日本発の知的創造を実現



平成14年7月 都市再生緊急整備地域指定
 平成23年12月 関西イノベーション国際戦略総合特区指定
 <規制緩和、税制支援（大阪独自「地方税ゼロ」）等>
 平成24年1月 特定都市再生緊急整備地域指定 <規制緩和、税制支援、プロジェクト審査迅速化等>

先行開発区域

ナレッジキャピタルを中核施設として商業、業務、ホテル、住宅を備える**グランフロント大阪**が平成25年4月にまちびらきエリア巡回バスや歩道空間を活用したオープンカフェ等の取組みをエリアマネジメント組織が展開

2期区域

平成21年7月:「大阪駅北地区2期開発ビジョン」を策定
 平成23年4月:都市基盤（土地区画整理事業、道路、都市高速鉄道、交通広場）の都市計画決定
 平成27年3月:うめきた2期区域まちづくりの方針を決定

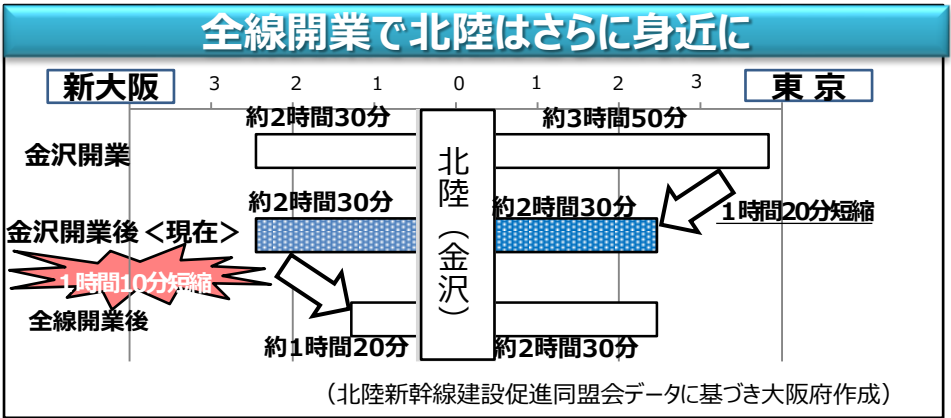
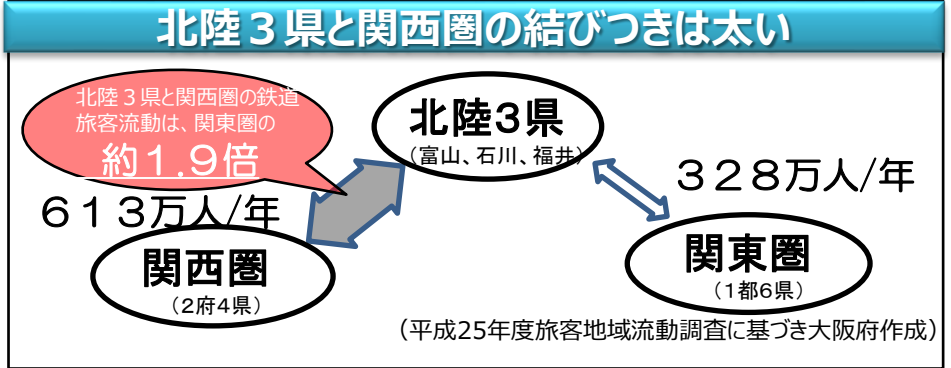


2期区域のまちづくりの目標

「みどり」と「イノベーション」の融合拠点

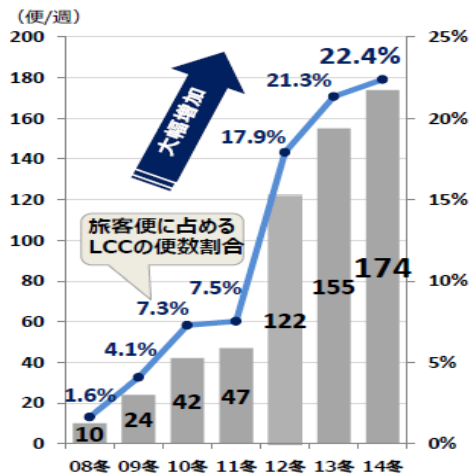
世界の人々を惹きつける 比類なき魅力を備えた「みどり」	まち全体を包み込む「みどり」がここにしかない新しい都市景観を創出し、多様な活動、新しい価値を生み出す源となり、世界の人々を惹きつける。
新たな国際競争力を獲得し、世界をリードする「イノベーション」の拠点	世界からの人材、技術を集積・交流させ、新しい産業・技術・知財を創造することで新たな国際競争力を獲得し、我が国の成長エンジンとして世界をリードする「イノベーション」の拠点となる。

- 北陸新幹線は日本海側と太平洋側の連携を強化し、国土の発展に寄与する重要な広域交通基盤
- 国土形成計画など国計画において、「整備新幹線の早期整備」が位置付け
- H27.3に北陸新幹線長野～金沢間が開業し、現在、金沢～敦賀間が工事中。敦賀以西のルートについては、現在、与党P Tにおいて検討が進められている（関西広域連合ではH25.4に米原ルート案が最も優位と国へ提案）

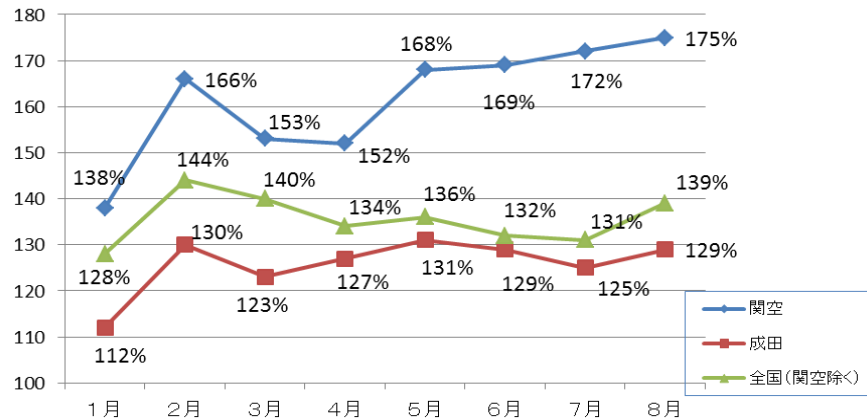


- 関空・伊丹が経営統合（H24.7）。
- LCC「Peach Aviation」の関空拠点化（H24.3）、フェデックスの北太平洋地区ハブ開設（H26.4）などが実現。特にLCCは国内空港最多の就航。
- アジア等の旺盛なインバウンド需要を取り込み、昨年度の発着回数が14.5万回と開港以来最高を記録、旅客数は2000万人を14年ぶりに突破。
(特に国際線外国人旅客数は699万人と日本人旅客数を初めて上回る。)
- 今後、コンセッションを通じた民間の戦略的な空港運営により、一層の国際競争力の強化を期待。

《関空におけるLCC就航便数》



《外国人出入国者数の推移(H26同月比)》



■ コンセッション（運営権の売却）の概要

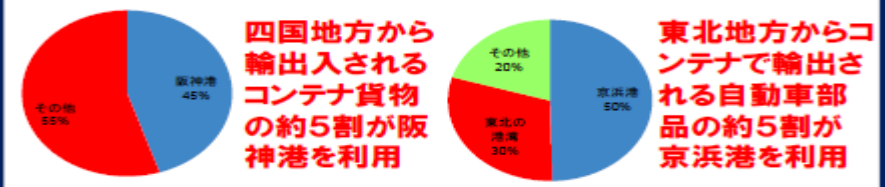
- ・ 目的：民間事業者の自由な経営と責任により、関空の国際拠点空港としての機能強化と、債務の早期かつ確実な償還を図る。
- ・ コンセッション事業者：関西エアポート株式会社（オリックス、ヴァンシ・エアポートコンソーシアムが設立した特別目的会社）
- ・ 実施期間：平成28年4月～平成72年3月（44年間）

広域に立地する企業とその活動を支える国際コンテナ戦略港湾「阪神港」

- 全国に立地する我が国企業の多くは、京浜港・阪神港を利用しており、京浜港・阪神港の輸出入貨物の相当程度を、直背後の都府県以外の利用が占める。 ⇒ **京浜港・阪神港は広域インフラ**
- ヨーロッパ一国と同等の経済規模を有し、多くの産業が立地する東日本・西日本において、海外とのモノのやりとりを支え、製造業をはじめとする**企業活動に不可欠な社会基盤として機能**。

各都道府県発着の輸出入コンテナの京浜・阪神港利用割合

遠方の道府県を発着するコンテナ貨物の多くが、京浜港・阪神港から輸出入されている

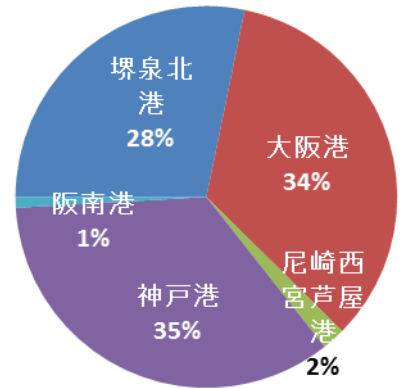


京浜港・阪神港で輸出入されるコンテナ貨物の発着地

京浜港・阪神港で輸出入されるコンテナ貨物の多くが、直背後都府県以外を発着地としている



大阪湾における主要港湾の取扱貨物量比較



- 国際戦略港湾**
大阪港 約8,698万トン
神戸港 約8,835万トン
- 国際拠点港湾**
堺泉北港 約7,179万トン
- 重要港湾**
尼崎西宮芦屋港 約502万トン
阪南港 約231万トン

〔各港の主力貨物〕

- 大阪港 … 衣類、電気機械、化学工業品、鋼材 等
- 神戸港 … 金属機械工業品、化学工業品、農水産品 等
- 堺泉北港 … 原油、中古車、石油製品 等

国際競争力強化に向けた、今後の国際コンテナ戦略港湾政策

- 〔今後概ね5年以内〕
欧米、北米など基幹航路の維持・拡大、
アフリカ、南米、中東・インド等、現状で寄港が少ない航路誘致
- 〔概ね10年以内〕
グローバル展開する我が国立地企業のサプライチェーン・
マネジメントに資する多方面・多頻度の直航サービスを充実

(参考) 国土交通省港湾局資料 (H26.10)
大阪港・神戸港・堺泉北港各港の港勢概要資料

大阪の成長に向けた重点課題（プロジェクト） <統合型リゾート（IR）の大阪での立地促進>

- 「国際エンターテインメント都市・大阪」の創出のため、統合型リゾート（IR※）立地を促進。
- 課題を最小限に留め、最大限の効果を追求
- IR推進法成立次第、大阪での立地を推進できるよう準備を進めている

※ 大阪のIRは、世界第一級のMICE機能、関西固有で世界に通用するエンターテインメント空間、大阪・関西の文化観光資源とのコラボレーション機能等を統合した新たな観光資源として、「最高水準のエンターテインメント都市創出」「内外からの集客力強化」「関連産業の活性化」を目指す。

■大阪の高い集客ポテンシャル

- 【立地】** 関西圏2,000万人以上の中心地、外国人の人気観光スポットに近接
- 【アクセス】** 関空3時間圏に東アジア主要都市、国内鉄道網との結節
- 【観光資源】** 伝統芸能、歴史的文化遺産、テーマパークなど
- 【情報創造・交流機能の集積】** 大学、研究所、専門学校、ホテルなど



- ・梅田、難波から10km圏
- ・埋立中で住宅は未立地
- ・約200haまで活用可能
- ・東京湾岸より安価

費用対効果が高く、事業者ニーズにも合致

■立地効果

「観光振興」「地域振興」「産業振興」

- （「日本再興戦略」より） + 税収増
（例）シンガポール（2010年に2施設オープン）
- ・観光客数 61%増
（2009年968万人⇒2013年1,557万人）
 - ・観光収入 83%増
（2009年12.8Bil\$⇒2013年23.5Bil\$）
 - ・雇用創出 約6万人（直接的及び間接的）

■立地にあたっての課題

- ・ギャンブル依存症に関する懸念
- ・治安や犯罪に関する懸念
- ・青少年教育（健全育成）に関する懸念

国において根本的な対策が講じられるべきであるが、大阪も地元自治体としての役割を果たせるよう、取組んでいく。

■大阪府民アンケート（H26.3）

『日本でこのような施設が整備されることについて』（インターネットモニター2000名対象）

- <賛成・条件付賛成> 56.6%
- <反対> 20.7%
- <わからない> 22.8%

■これまでの取組み

大阪エンターテインメント都市構想推進検討会（H22.7～）

学識、経済界、観光関連団体、PTA協議会、自治体代表等の委員により「大阪におけるIRに関する基本的な考え方」をとりまとめ

大阪府市IR立地準備会議（H25.12～）

知事（本部長）、大阪市長（副本部長）

IR立地準備会議

候補地を「夢洲を軸とした大阪市内ベイエリア」とする「基本コンセプト案」を確認（H26.4）

大阪府市が夢洲まちづくり構想検討会を設置

府は、関西の経済3団体とともに参画（H26.10）
「夢洲まちづくり構想（案）～中間とりまとめ～」（H27.2）

大阪の成長に向けた重点課題（プロジェクト） <国際博覧会の大阪誘致>

国際博覧会の開催意義

2020年東京オリンピック・パラリンピックに続く国家プロジェクトとして、半世紀ぶりに国際博覧会を開催することは、21世紀の人類共通の課題解決に寄与することに加え、大阪の都市格の向上や経済活性化が期待されるなど、大阪のみならず日本の成長に資するものになる。

【国際博覧会（登録博覧会）とは】

- ・国際博覧会条約に基づき、B I E（博覧会国際事務局：加盟国169か国）の承認のもと、5年に1回開催。開催期間は6週間以上6ヶ月以内。
- ・本年開催されたミラノ国際博覧会（イタリア）は、「地球に食料を、生命にエネルギーを」をテーマに開催し、2,150万人が来場。
- ・次回の登録博覧会は、2020年ドバイ（アラブ首長国連邦）での開催がB I Eで決定されている。

これまでの経過

- ・国と意見交換を実施するとともに、経済界、有識者、市町村で構成する「国際博覧会大阪誘致構想検討会」を平成27年4月に設置。計4回開催し、幅広い観点から意見を聴取。
- ・平成27年8月に、検討会委員からの意見、論点、各種調査内容についてとりまとめ、公表。

【検討会での意見より】

- ①機運の醸成を
- ②大阪の将来を見据えたコンセプトづくりを
- ③検討のプロセスに若者などの声を

- ・平成27年9月、ミラノ国際博覧会視察とBIE（博覧会国際事務局）訪問を実施。ロセルタレスB I E事務局長との意見交換等を実施するとともに、国際博覧会の大阪誘致の意義や可能性を調査。

■経済波及効果（試算）

- ・愛知万博相当を大阪で開催した場合、間接効果を含めると経済波及効果は、大阪府域全体で、約3兆円



< B I E 事務局長と知事の意見交換 >



< 知事のミラノ博視察 >

今後の取り組み

どのような国際博覧会を開催するのかというしっかりとしたコンセプトづくりを行い、府民や企業をはじめ、幅広い方々のコンセンサスが得られるよう、オール大阪での機運醸成に努めるとともに、国への働きかけ、協議を実施していく。



2 首都・副首都について

- (1) 首都の定義・位置づけ
- (2) 諸外国の事例
- (3) 国の動き
- (4) 東京一極集中の現状

首都の定義・位置づけ <一般的な『首都』>

出典	内容
広辞苑	<ul style="list-style-type: none"> その国の中央政府のある都市。首府。
最新地理学辞典	<ul style="list-style-type: none"> 政府諸機関の所在する一国の政府中心地をいう
ウィキペディア	<ul style="list-style-type: none"> 一国の中心となる都市のことを指す。 ほとんどの場合にはその国の中央政府が所在し、国家元首等の国の最高指導者が拠点とする都市のことである。ただ、場合によっては、中央政府の所在とは別に、その国のシンボリック存在として認められている都市が首都とされることもある。 首府・国都・都などとも呼ばれ、また、帝制国家や王制国家の場合は帝都・王都等の称がある。
和英辞典	キャピタルシティ (Capital city) <ul style="list-style-type: none"> 首都、政庁所在地、中心地
	<hr style="border-top: 1px dashed black;"/> メトロポリス (Metropolis) <ul style="list-style-type: none"> 中心都市、大都市

<p>※東京都ホームページより</p> <p>〔東京都から「国会等の移転に関する特別委員会」(衆議院)に対する照会の回答〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> 天皇の住む都市である。 一般的に一国の政府が置かれている都市を指すが、国や時代によって異なる。明確な定義づけは今後も議論の余地を残す。 国民主権の立場から、国会が置かれているところが首都である。 行政・司法・国会等の機関が置かれ政治・経済の中心となる都市。 中央政府のある都市と一般的にいわれているが、はっきりした定義はないと考える。
---	---

首都の定義・位置づけ <日本における『首都』>

- 日本には「首都」の定義を定める法律はないが、東京（都）が「首都」であることについて触れている法律は、『首都建設法（昭和31年廃止）』と『首都圏整備法』がある。

■首都建設法（昭和25年制定／昭和31年廃止）

第1条 この法律は、東京都を新しく我が平和国家の首都として十分にその政治、経済、文化等についての機能を発揮し得るよう計画し、建設することを目的とする。

第2条 この法律で、首都建設計画とは、東京都の区域において施行せられる重要施設の基本的計画であって、東京都における都市計画及び都市計画事業並びに前条の目的を達成するため必要な施設の計画及び事業の基準となるものをいう。

■首都圏整備法（昭和31年制定）

第1条 この法律は、首都圏の整備に関する総合的な計画を策定し、その実施を推進することにより、わが国の政治、経済、文化等の中心としてふさわしい首都圏の建設とその秩序ある発展を図ることを目的とする。

第2条 「首都圏」とは、東京都の区域及び政令で定めるその周辺の地域を一体とした広域をいう。

※政令で定める周辺の区域・・・埼玉県、千葉県、神奈川県、茨城県、栃木県、群馬県及び山梨県の区域

□関東大震災直後ノ詔書（大正12年9月）

抑モ東京ハ帝国ノ首都ニシテ政治経済ノ枢軸トナリ国民文化ノ源泉トナリテ民衆一般ノ瞻仰スル所ナリ一朝不慮ノ災害ニ罹リテ今ヤ其ノ日形ヲ留メスト雖依然トシテ我国都タル地位ヲ失ハス是ヲ以テ其ノ善後策ハ独リ旧態ヲ回復スルニ止マラス進ンテ将来ノ発展ヲ図リ以テ巷衢ノ面目ヲ新ニセサルヘカラス・・・

諸外国の事例 <首都機能等の立地>

- 基本的に、首都には「国会」が所在。
- 「中央官庁」は、首都以外に配置の事例あり（分散事例あり）

※ 網掛け部分は首都以外

	日本	アメリカ	カナダ	ドイツ	韓国	オーストラリア	オランダ	イギリス	フランス
首都	東京	ワシントン	オタワ	ベルリン	ソウル	キャンベラ	アムステルダム	ロンドン	パリ
王宮・大統領府	東京	ワシントン	オタワ	ベルリン	ソウル	キャンベラ	ハーグ	ロンドン	パリ
国会	東京	ワシントン	オタワ	ベルリン	ソウル	キャンベラ	ハーグ	ロンドン	パリ
中央官庁	東京	ワシントン	オタワ	ベルリン、 ボン	ソウル、燕岐、 公州、黒川、 大田、水原、 仁川	キャンベラ	ハーグ	エジンバラ 等20都市	パリ
最高裁判所	東京	ワシントン	オタワ	カールスルーエ	ソウル	キャンベラ	ハーグ	ロンドン	パリ
各国大使館	東京	ワシントン	オタワ 一部トロント	ベルリン	ソウル	キャンベラ	ハーグ	ロンドン	パリ
中央銀行	東京	ワシントン	オタワ	フランクフルト	ソウル	シドニー	アムステルダム	ロンドン	パリ
人口最大都市	東京	ニューヨーク	トロント	ベルリン	ソウル	シドニー	アムステルダム	ロンドン	パリ
経済中心都市	東京	ニューヨーク	トロント	フランクフルト	ソウル	シドニー	アムステルダム	ロンドン	パリ
主要空港	東京 (羽田)	アトランタ	トロント	フランクフルト	ソウル (仁川)	シドニー	アムステルダム	ロンドン	パリ
主要港湾	東京湾	ロサンゼルス	バンクーバー	ハンブルグ	釜山	シドニー	ロッテルダム	フェリクストウ	ルアーブル

※ 空港は旅客数、港湾はコンテナ貨物量がトップの施設がある都市(いずれも2014年)

国等の動き／首都機能移転 <国会等の移転に関する主な経緯>

昭和30年代～

- ▶ 学者・研究機関等による遷都・分都論等の首都機能移転の提言

昭和52年11月

- ▶ 第三次全国総合開発計画
→首都機能の移転は、…21世紀に向けて創造的建設的な議論が国民的規模でなされることが望まれ、これを踏まえてその移転の方向を見定めなければならない。

昭和62年6月

- ▶ 第四次全国総合開発計画
→遷都問題については、…国民的規模での議論を踏まえ、引き続き検討する。

平成2年11月

- ◆ 国会等の移転に関する決議【衆・参両議院で採決】
 - ・東京一極集中の排除
 - ・21世紀にふさわしい政治・行政機能の確立

平成4年12月

- ◆ 国会等の移転に関する法律
 - ・国会等の移転の具体化に向けての国の検討
 - ・国が検討を行う上での指針
 - ・国会等移転調査会の設置

平成5年4月～平成7年12月

- ▶ 国会等移転調査会
→7回開催（部会[2部会]34回、公聴会4回）
移転の意義・効果、移転先の選定基準等を取りまとめ

平成8年6月

- ◆ 国会等の移転に関する法律の一部改正
 - ・移転先候補地の選定
 - ・国会等移転審議会の設置

～

平成10年3月

- ▶ 21世紀の国土のグランドデザイン
→首都機能移転は、…国土政策上極めて大きな効果を有するもの…具体化に向けて積極的に検討を進める。

平成10年6月～平成11年12月

- ▶ 国会等移転審議会
→31回開催（部会21回、公聴会9回）
移転先候補地の選定等を取りまとめ

<答申（H11年12月）>

- ・移転先候補地として、北東地域の「栃木・福島地域」又は東海地域の「岐阜・愛知地域」を選定する。
- ・「三重・畿央地域」は、他の地域にない特徴を有しており、将来新たな高速交通網等が整備されることになれば、移転先候補地となる可能性がある。

平成12年5月【衆】・平成14年7月【参】

- ◆ 国会等の移転に関する特別委員会【衆・参】
→H15年5月【衆】、同年6月【参】において、
検討経緯等に関する中間報告

平成15年6月

- ◆ 国会等の移転に関する政党間両院協議会
→「座長とりまとめ」を衆参の議院運営委員長に報告

<座長とりまとめ（H16年12月）>

- ・国会等の移転は、国と地方の新たな関係、防災、危機管理のあり方など、密接に関連する諸問題に一定の解決の道筋が見えた後、大局的な観点から検討し、意思決定を行うべきものであるとの意見が多くを占めた。
- ・当協議会としては、今後は、…分散移転や防災、とりわけ危機管理機能（いわゆるバックアップ機能）の中核の優先移転などの考え方を深めるための調査、検討を行うこととする。

	項目	内容
新しい政治・行政	①首都機能	<ul style="list-style-type: none"> ・新首都には、国の立法・行政・司法の三権の中核機能の立地が必要 ・対外的にも国家の三権を代表する機能が一箇所にまとまっていることがより重要
	②立法機能	<ul style="list-style-type: none"> ・政党の本部、国会議員のスタッフ等
	③首都機能を支える民間機能	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコミやシンクタンクなど多角的な民間の政策議論に係わる機能
	④連絡調整機能	<ul style="list-style-type: none"> ・地方公共団体、民間企業等の連絡事務所等は、国と地方、国と民間との関係の変化、政治・行政の情報化やマルチメディアの発達などに伴うフェイス・ツー・フェイスの接触の必要性の低下により、新首都への立地の必要性が小さくなるよう目指すべき
国際政治的な本格的な機能	⑤外交関係機能	<ul style="list-style-type: none"> ・各国大使館等の在日外国公館の機能
	⑥国際交流機能	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生や海外へのボランティア活動等を支援する機能等の国際交流機能
	⑦国際情報拠点機能	<ul style="list-style-type: none"> ・世界に開かれたわが国の政治・行政情報や世界各国からの様々な情報が交流する結節点としての機能
象徴する日本の針路を	⑧日本の文化や進路を示す機能	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の歴史や文化、現代のわれわれの生活、わが国が目指すべき方向等に接することのできる博物館、ネットワーク、交流の場等の機能
	⑨国際的な文化・学術交流を深める機能	<ul style="list-style-type: none"> ・人文科学、社会科学、自然科学等にまたがる幅広い情報や識見の集積やそれを活用した人材育成の機能、地球的な視野に立った研究交流を深める機能等世界と日本の情報と人材を生み出す機能
	⑩未来の文化を生み出す機能	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいライフスタイルや文化の創造を支援し、未来の文化を生み出す機能

国等の動き／政府関係機関の移転 <全国からの提案状況>

- 東京の一極集中を是正するため、地方の自主的な創意工夫を前提に、それぞれの地域資源や産業事情等を踏まえ、地方における「しごと」と「ひと」の好循環を促進することを目的に、まち・ひと・しごと創生本部において検討
 - ① 対象機関：東京都にある政府関係機関＋すべての研究機関・研究所
 - ② 提案資格者：東京圏（1都3県）以外の道府県等

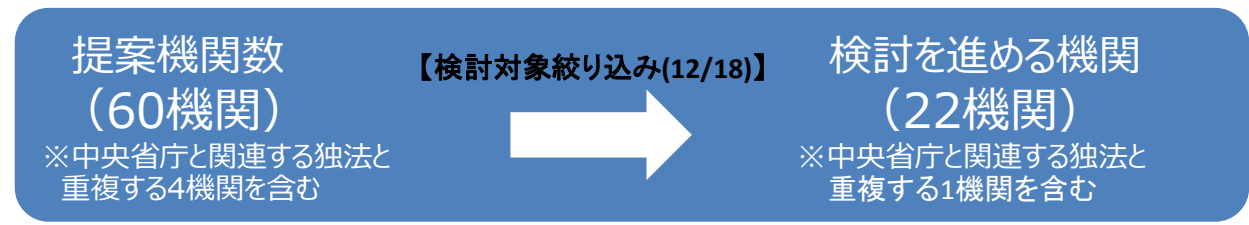
■東京圏(1都3県)と鹿児島県を除く、42道府県が69機関を提案（H27.8）

機関の種類	機関数	機関名
①中央省庁	7	文化庁、特許庁、中小企業庁、観光庁、気象庁、統計局、消費者庁
②研究機関	21	医薬基盤・健康・栄養研究所、産業技術総合研究所、理化学研究所 など
③研修機関・政策研究機関	25	自治大学校、防衛大学校、森林技術総合研修所、国際協力機構 など
④事業実施機関	16	工業所有権情報・研修館、医薬品医療機器総合機構、国立公文書館 など

うち大阪府の提案

- ・中小企業庁
- ・特許庁
- ・工業所有権情報・研修館
- ・医薬品医療機器総合機構
- ・国立健康・栄養研究所

■内閣府のヒアリング、府省との意見交換、有識者によるヒアリング等を実施中 研究機関・研修機関等(②～④)



中央省庁と関連する独法（①＋④）

主要な論点を整理して、検討を深める

(中央省庁7機関)
＋
(事業実施機関6機関)



今後の検討対象機関

34機関

【今後のスケジュール】 1月～2月 (中央省庁以外) 関係者間で具体的に検討 (中央省庁) 意見交換・調整
3月 有識者会議(基本方針案) → まち・ひと・しごと創生本部 (基本方針の決定)

国等の動き／首都機能バックアップ（政府業務継続計画）

- ・首都直下地震が発生した場合、その災害から国民の生命、身体および財産を守るため、防災対策の推進を図ることを目的として、「**首都直下地震対策特別措置法**」が成立（H25.11）
- ・同法に基づき、行政中枢機能の維持に関する緊急対策実施計画として、「**政府業務継続計画**」を閣議決定（H26.3）

政府業務継続計画

《ポイント》

- ・非常時に維持すべき**政府必須機能**として、「**内閣**」「**被災地対応**」「**金融・経済**」「**国民生活基盤維持**」「**防衛・治安**」「**外交**」の**6つを列挙**。その上で、災害発生時に政府全体で優先すべき業務を定めている。
- ・さらに、一定時間内に参集可能な職員数の把握など、この政府 B C Pに基づき、各府省庁ごとに「**省庁業務継続計画（省庁 B C P）**」を定めることを求めている。
- ・また、従来の代替拠点（内閣府や防衛省、立川広域防災基地等）が被災することも想定。今後、過酷事象における**東京圏外の政府の代替拠点等を今後の検討課題**としている。

《東京圏外の政府の代替拠点に関する記述～抜粋～》

IV 今後の検討課題

（前略）さいたま新都心等の東京圏内の地区のほか、**大規模地震に係る現地対策本部の設置予定箇所、各府省等の地方支分部局が集積する都市**（札幌市、仙台市、名古屋市、**大阪市**、広島市、福岡市等）**等代替拠点と成り得る地域**を対象に、代替拠点への職員の移動手段、既存の庁舎、設備及び資機材の活用、宿泊施設等の確保等に係る具体的なオペレーションについても検討する。

大阪・関西の国関係機関

省庁等	関連機関等（首都圏内）		関連機関等（首都圏外）		備考
国会	国立国会図書館	東京都千代田区永田町	関西館	京都市相楽郡精華町精華台	
内閣府	迎賓館	東京都港区元赤坂	京都迎賓館	京都市上京区京都御苑	
外務省	外務本省	東京都千代田区霞が関	大阪分室（関西担当大使）	大阪市中央区大手前	成田分室あり
宮内庁	皇居	東京都千代田区千代田	京都御所	京都市上京区京都御苑	
財務省	（独法）国立印刷局	東京都港区虎ノ門	（独法）造幣局	大阪市北区天満	東京、広島に支局あり
国土交通省	東京航空局	東京都千代田区九段南	大阪航空局	大阪市中央区大手前	地方航空局は東京・大阪のみ
	—	—	航空保安大学校	大阪府泉佐野市りんくう往来南	宮城県に研修センターあり
日本政府観光局（JNTO）	パシフィコ横浜国立大ホール	横浜市西区みなとみらい	国立京都国際会館	京都市左京区岩倉大鷲町	
厚生労働省	中央労働委員会	東京都港区芝公園	西日本地方事務所	大阪市中央区大手前	
	（独法）医薬品医療機器総合機構（PMDA）	東京都千代田区霞が関	関西支部	大阪市北区大深町	
	—	—	国立循環器病研究センター	大阪府吹田市藤代台	
	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）	東京都千代田区大手前	創薬支援戦略部 西日本統括部	大阪市北区大深町	
経済産業省	（独法）製品評価技術基盤機構（NITE）	東京都渋谷区西原	国際評価技術本部 等	大阪市中央区大手前	
	国立研究開発法人エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）	川崎市幸区大宮町	支部	大阪市北区梅田	中部以西の各経産局管内及び沖縄県を所管
その他	（株）東京証券取引所	東京都中央区日本橋兜町	（株）大阪取引所	大阪市中央区北浜	東京支社あり
	日本銀行	東京都中央区日本橋本石町	大阪支店	大阪市北区中之島	大阪支店のみ本店被災時のバックアップ機能あり

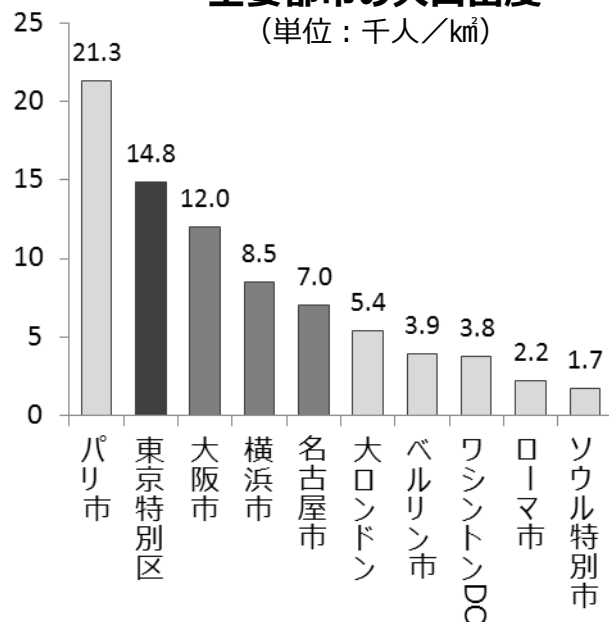
東京一極集中の現状 <人口の過密>

【海外レポート】OECDテリトリアル・レビュー（2006） <抜粋>

- OECD諸国の近年急発展している大都市圏（ソウル、イスタンブール等）ばかりでなく、パリ、東京、ロンドンのような昔からの大都市や、ヘルシンキ、ストックホルムのような人口がさほど密集していない都市でも、**混雑コスト（交通、大気、水質汚染、騒音、緑化地区の悪化など）が顕著**になっている
- 一部の大都市圏では**メンテナンスコストが高いためインフラが悪化する可能性**もある。
- 巨大都市は集積の不経済を伴う可能性がある。**一定限度（約700万人）までは大きいほど豊かなことを意味するが、その限度を超えると、大都市圏の規模と所得は負の相関関係になる**（ソウル、メキシコシティ、イスタンブール、東京など）

主要都市の人口密度

（単位：千人/km²）



鉄道混雑率

（各地域の路線別混雑率1位）

地域	会社	線名	混雑率
東京	J R	山手線外回	199%
	私鉄	小田急小田原	189%
	地下鉄	メトロ東西線	200%
名古屋	J R	中央線	129%
	私鉄	名鉄本線	139%
	地下鉄	市営東山	137%
大阪	J R	環状線	113%
	私鉄	阪急宝塚線	144%
	地下鉄	市営御堂筋	142%

通勤・通学時間

（15歳以上・平日）

<上位10都道府県>

都道府県	分
①神奈川県	55分
②埼玉県	52分
③東京都	49分
④千葉県	48分
⑤奈良県	44分
⑥兵庫県	42分
⑦大阪府	39分
⑧茨城県	38分
⑨愛知県	38分
⑩京都府	38分

出典：国交省 混雑率データ 2014

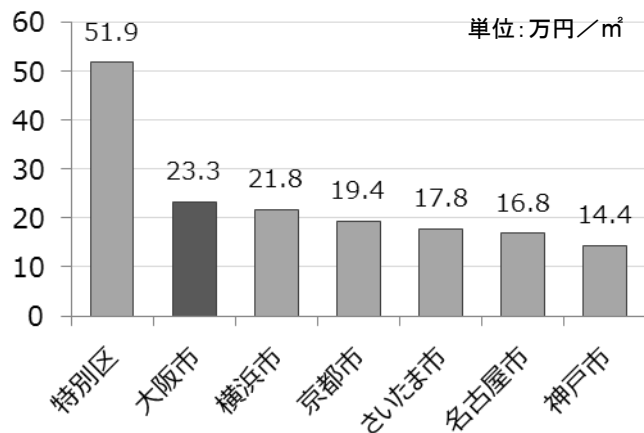
出典：平成23年社会生活基本調査
※ゴシックが関東

東京一極集中の現状 <地価と物価>

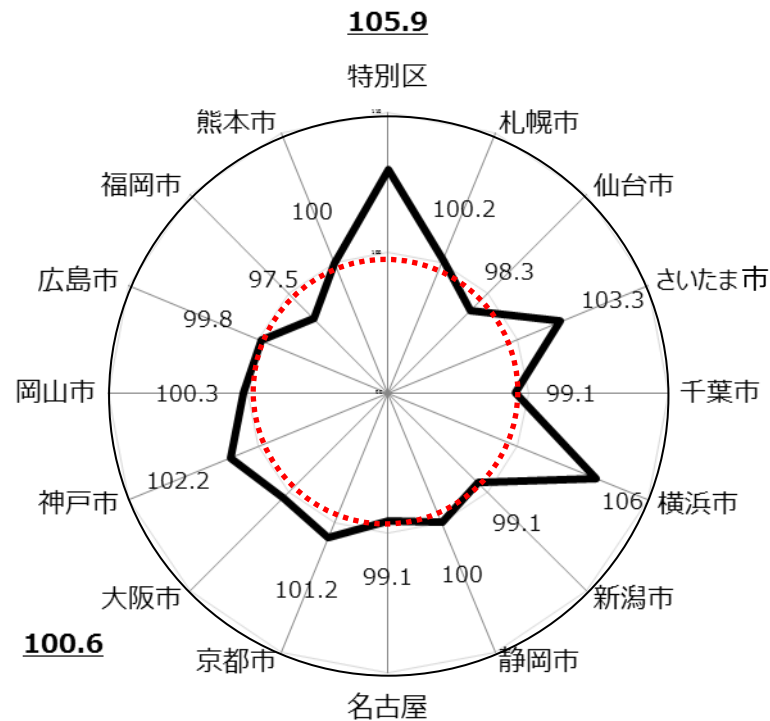
地価公示（平成27年1月）ランキング 単位：万円/㎡

	都道府県	県平均	最高地	住所地【全国順位】
1	東京都	84.0	3,380	中央区銀座4 【1】
2	大阪府	24.9	1,010	北区大深町 【27】
3	神奈川県	23.6	870	西区南幸 【34】
4	京都府	17.5	354	下京区四条通【106】
5	愛知県	15.5	835	中村区名駅 【37】
6	埼玉県	13.9	233	大宮区桜木町【144】
7	兵庫県	13.5	310	中央区三宮町【116】
8	千葉県	10.7	150	中央区富士見【276】
9	広島県	10.4	210	中区八丁堀 【171】
10	福岡県	9.9	623	中央区天神 【57】

都心部の住宅地平均のランキング



消費者物価地域差指数



<消費者物価地域差指数>

都道府県庁所在市（東京都は東京都区部）及び政令指定都市（川崎市、浜松市、堺市及び北九州市）の51市平均を基準（=100）とした指数。

指数は、総合指数（持家の帰属家賃を除く）を掲載

<参考>

大阪府・市事業の「経営形態の見直し」及び
「類似・重複している行政サービスの見直し」

大阪府市統合本部の取組み(広域行政の一元化・二重行政の見直し)

H23.12.27 (第1回) **大阪府市統合本部 設置** (H27.6.30 廃止)
タスクフォース等による検討開始



H24. 6.19 (第14回) **A・B項目の基本的方向性(案) 公表**

A項目：12項目 (経営形態の見直し検討項目)	B項目：22項目 (類似・重複している行政サービス)
地下鉄、バス、水道、一般廃棄物、消防、病院・弘済院、港湾、大学、公営住宅、文化施設、市場、下水道	出資法人、公設試験施設、集客施設、その他の施設



H24.9. 4 (第16回)
H25.2. 8 (第18回)
8.27 (第21回) **基本的方向性(案)工程表 作成、更新**



各項目の実現に向けた取組を推進

<統合・一元化が実現したもの>

**消防学校の
一体的運用**
(H26年4月)

**信用保証協会の
合併**
(H26年5月)

**市内府営住宅の
市移管**
(H27年8月)

**特別支援学校を
府へ一元化**
(H28年4月予定)

主な項目の進捗状況（府市の統合・連携）

【方向性】

【主な取り組みと現状】

大学

- 公立大学のあり方について将来ビジョンを策定
- 市大改革の推進、府大改革の着実な実施
- 法人統合に向けた組織改革の推進

- ・ 両大学において「新・公立大学」大阪モデル（基本構想）を策定
- * 府立大学の中期目標変更案を府議会で可決（H27年12月）
- * 市立大学の中期目標変更案を市会で審議中

港湾

- 大阪湾諸港の港湾管理の一元化の第一ステップとして、「新港務局」により府市の港湾管理者を統合

- ・ 大阪湾諸港の港湾管理一元化に向けた協議
- * 府市港湾委員会共同設置関連議案を市会・府議会で否決

病院

- 地方独立行政法人大阪市民病院機構（仮称）を設立、府市病院を一体的に運営
- 市立住吉市民病院の小児・周産期医療の機能を府立急性期・総合医療センターへ統合

- ・ 地方独立行政法人大阪市民病院機構の設立（H26年10月）
- * 大阪府市共同 住吉母子医療センター（仮称）整備予算を市会・府議会で可決（H27年3月）
- ・ 住吉市民病院用地に誘致する民間事業予定者を選定（H27年8月）

府立産業技術 総合研究所 市立工業研究所

- 法人統合により、工業技術とものづくりを支える知と技術の支援拠点「スーパー公設試」をめざす

- ・ 合同経営戦略会議において統合計画（案）策定（H26年7月）
- ・ 連携の強化、業務プロセスの共通化
- * 新設合併の関連議案を市会・府議会で否決

府立公衆衛生 研究所 市立環境科学 研究所

- 両研究所で共通する分野の検査・調査研究機能を統合した研究所を設置
- 運営形態については、非公務員型の地方独立行政法人

- ・ 合同研究の実施や合同セミナーの開催
- * 大阪健康安全基盤研究所の定款案等を市会・府議会で可決（H25年3月）
- * 中期目標案等の統合関連議案を府議会で可決（H25年12月）、市会で否決

主な項目の進捗状況（民営化等）

【方向性】

【主な取り組みと現状】

地下鉄

- 上下一体での株式会社化をめざす

- ・初乗り運賃値下げ、終発延長、トイレ改修
- ・地下鉄事業民営化基本プラン案等策定
- *地下鉄事業の廃止条例案を市会で否決
- *事業引継ぎに関する基本方針の策定を議決事件とする条例案を市会で可決（H27年10月）

バス

- 大阪シティバス（株）への事業譲渡をめざす

- ・路線の見直し、経営効率化による黒字化
- ・バス事業民営化基本プラン案等策定
- *バス事業の廃止条例案を市会で否決
- *事業引継ぎに関する基本方針の策定を議決事件とする条例案を市会で可決（H27年10月）
- ・土地信託事業の和解金支払いにより経営健全化団体となる

一般廃棄物 （収集輸送）

- 「事業の民間化」と「現業職員の非公務員化」の同時実現
（民間委託化の早期拡大を図る）

- *新たな経営形態への移行準備にかかる予算案等が市会で修正削除
- ・段階的な委託化手法の再検討（H26年5月）
- ・北部環境事業センターの家庭系ごみ収集を民間委託化（H28年4月）

水道

- 市水道局は公共施設等運営権制度の活用による上下分離経営をめざす

- ・水道料金の見直し
- *水道事業の条例改正案を市会で否決
- ・「水道事業における公共施設等運営権制度の活用について」（実施プラン案）修正

下水道

- 市下水道事業は公共施設等運営権制度の活用による上下分離経営をめざす

- ・下水道施設の運転維持管理業務の包括委託実施
- ・経営形態見直し基本方針（案）策定

※ 一般廃棄物の焼却処理事業については、H26.11に「大阪市・八尾市・松原市環境施設組合」を設立（H27年4月事業開始）